

ネットワークカメラ 取扱説明書



免責事項



注意!

デフォルトパスワードは最初のログインに使用されます。

アカウントのセキュリティを確保するため、最初のログイン後に、

パスワードを変更してください。強力なパスワード（8文字以上）を設定するよう推奨します。

- 該当法規の規定により、本書で説明されている製品（ハードウェア、ソフトウェア、ファームウェア、ドキュメントを含む）は「現状のまま」で提供されます。
- 本書の内容について完全性や正確性を期していますが、本書内の記述、情報、推奨事項は、明示・暗示を問わず一切の保証なしに提供されます。本書の技術的誤謬や誤植について、当社は一切責任を負いません。本書の内容は予告なく変更されることがあります。更新された記述内容は、本書の新版に追加されます。
- 本書の使用ならびにそれによって生ずる結果は、すべて使用者が責任を負うものとします。当社では、収益の損失、業務の中断、データやドキュメントの喪失等、本製品の使用に起因するいかなる特別損害、結果的損害、偶発的損害、間接的損害に関して、一切責任を負いません。
- 動画および音声による監視を規定する法規は、国ごとによって異なります。監視目的で本製品を使用する前に、お住まいの地域の法規を確認してください。装置の違法な操作に起因するいかなる結果に関しても、当社では一切責任を負いません。
- 本書に記載されている機能は単なる参考にとどまり、実際のバージョンや機種と異なる可能性があります。本書に掲載のスクリーンショットは、特定の要件やユーザの好みに応じてカスタマイズされている場合があります。その結果、例や機能の一部が、お使いのモニターの表示内容と異なることがあります。
- 本書は多数の製品機種のガイドとして作成されており、特定の製品を意図したものではありません。
- 物理環境などの不確定要素により、実際の値と本書の参考値が食い違うことがあります。最終的な解釈は当社の一存に委ねられます。

環境保護

本製品は環境保全の要件を満たすよう設計されています。適切な方法で保管・使用・廃棄するため、各国の法規や規則を遵守してください。

記号

本書には下表の記号が使用されています。

危険な状況を回避するため、各記号の指示に従い、製品を正しく使用してください。

記号	説明
 警告!	重要な安全上の指示が記載され、使用者が怪我をする原因となる状況が示してあります。
 注意!	すなわち、使用者の注意を要し、不適切な方法で使用すると、製品が破損したり動作不良になる状況を意味します。
 参考!	製品の使用に関する役に立つ情報や追加情報を意味します。

目次

免責事項	i
環境保護	ii
記号	ii
1 ログイン	5
1.1 準備	5
1.2 ログイン	5
2 ライブビュー	7
2.1 ライブビュー	7
2.1.1 ピクセルの計算	8
2.1.2 デジタルズーム	9
2.1.3 スナップショット	10
2.2 PTZコントロール	11
2.2.1 3Dポジショニング	12
2.2.2 エリアフォーカス	13
2.2.3 プリセット	13
2.2.4 巡回	14
2.3 一般パラメータ	19
3 再生	20
3.1 再生ツール	20
3.2 検索及び再生	22
3.3 録画ダウンロード	22
4 写真	25
5 設定	26
5.1 ローカルパラメータ	26
5.2 ネットワークの設定	28
5.2.1 基本構成	28
5.2.2 サービス設定	34
5.2.3 プラットフォームアクセス	39
5.3 ビデオと音声	43
5.3.1 ビデオ	43
5.3.2 スナップショット	46
5.3.3 音声	48
5.3.4 ROI	50
5.3.5 メディアストリーム	51

5.4 PTZ	53
5.4.1 PTZ基本設定	53
5.4.2 ホームポジション(Auto Guard)	54
5.4.3 パン/チルト限定	55
5.4.4 巡回	56
5.4.5 位置校正	56
5.5 画像	58
5.5.1 画像	58
5.5.2 OSD	72
5.5.3 プライバシーマスク	74
5.6 イベント	76
5.6.1 標準アラーム	76
5.7 ストレージ	86
5.7.1 メモリカード	86
5.7.2 NAS	87
5.7.3 FTP	88
5.8 セキュリティ	89
5.8.1 ユーザー	89
5.8.2 HTTPS	93
5.8.3 認証	93
5.8.4 ARP保護	94
5.8.5 IPアドレスフィルタリング	95
5.8.6 アクセス方式	96
5.8.7 証明書の管理	98
5.8.8 登録情報	101
5.8.9 ウォーターマーク	101
5.9 システム	102
5.9.1 時刻	102
5.9.2 サマータイム	103
5.9.3 デバイス情報	103
5.9.4 ポート&デバイス	104
5.9.5 メンテナンス	108
5.9.6 ログ	112

1 ログイン

1.1 準備

クイックガイドに従って設置を完了したら、カメラを電源に接続して起動します。カメラが起動します。

カメラのウェブインターフェースにログインして管理できます。

ログイン前のチェック

- カメラが正常に動作している。
- PCとカメラとのネットワーク接続が正常に動作している。
- PCではGoogle Chrome 105 以上の使用をお勧めします。
- 64bitのオペレーティングシステムを使用する場合は、32bitまたは64bitのウェブブラウザが必要です。



参考!

32MP ライブビュー : お勧めするPC構成: Intel® Core™ i7 8700; GTX 1080 グラフィックカード;
DDR4 8GB 以上。

1.2 ログイン

カメラのデフォルトの静的IP アドレスは192.168.1.13で、デフォルトのサブネットマスクは255.255.255.0です。

デフォルトではDHCPが起動します。ネットワークでDHCPサーバが使用されている場合、カメラのIPアドレスが動的に割り当てられるので、正しいIPアドレスを使用してログインする必要があります。

1. Chrome 開いてアドレスバーに、カメラのIPアドレスを入力して、ログインページを表示させます。
2. 初めてログインする際には、システムの指示に従ってActiveXをインストールしてください。
インストールを完了するには、ブラウザを閉じる必要があります。
手動でダウンロードする場合はhttp://IP address/ActiveX/Setup.exe を入力してEnterキーを押します。

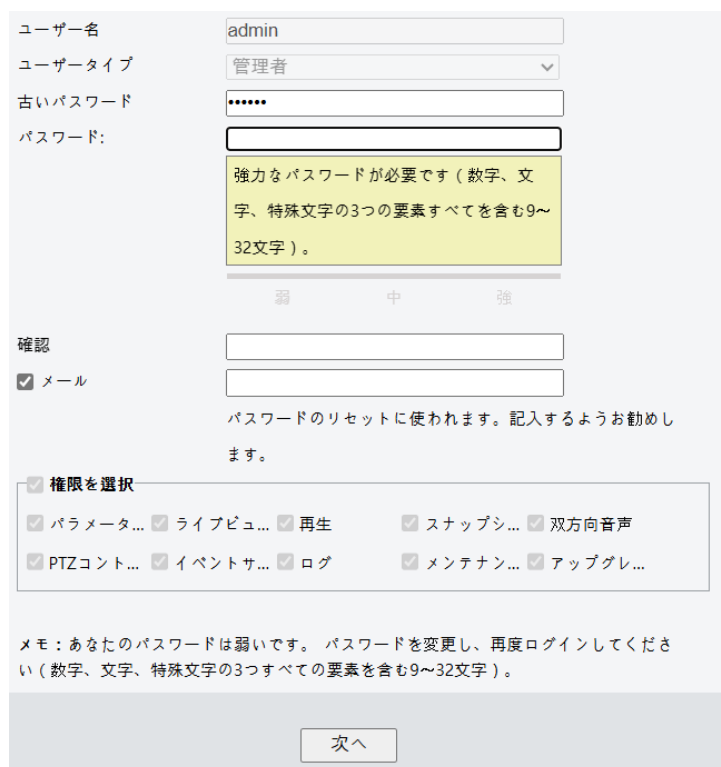
 ここをクリックしてください [ダウンロード](#) 最新プラグインをダウンロードしてください、インストールする前にブラウザを閉じてください

3. ログイン後ライブビューを自動的に開始するかどうかを設定します。
- **ライブビュー**が選択されている場合ログインするとライブビューが自動的に開始されます。
 - **ライブビュー**が選択されていない場合ライブビューを手動で開始する必要があります。



4. ユーザー名とパスワード(デフォルトはadmin/123456)を入力しログインをクリックします。
ユーザー名とパスワードテキストボックスをクリアするには、リセットをクリックします。
5. 初めてログインすると、パスワードの変更のボックスが表示され、強力なパスワードが設定できます。
パスワードを検索する場合は、メールアドレスを入力する必要があります。

- (1) 数字、文字、特殊文字の3つの要素をすべて組み合わせて、9 ~ 32 文字の強力なパスワードを設定します。
(2) パスワードを再取得する必要がある場合に備えて、メールアドレスを入力してください。



パスワードを忘れた場合は、[パスワードをお忘れですか？]をクリックし、画面の指示に従ってパスワードをリセットします。



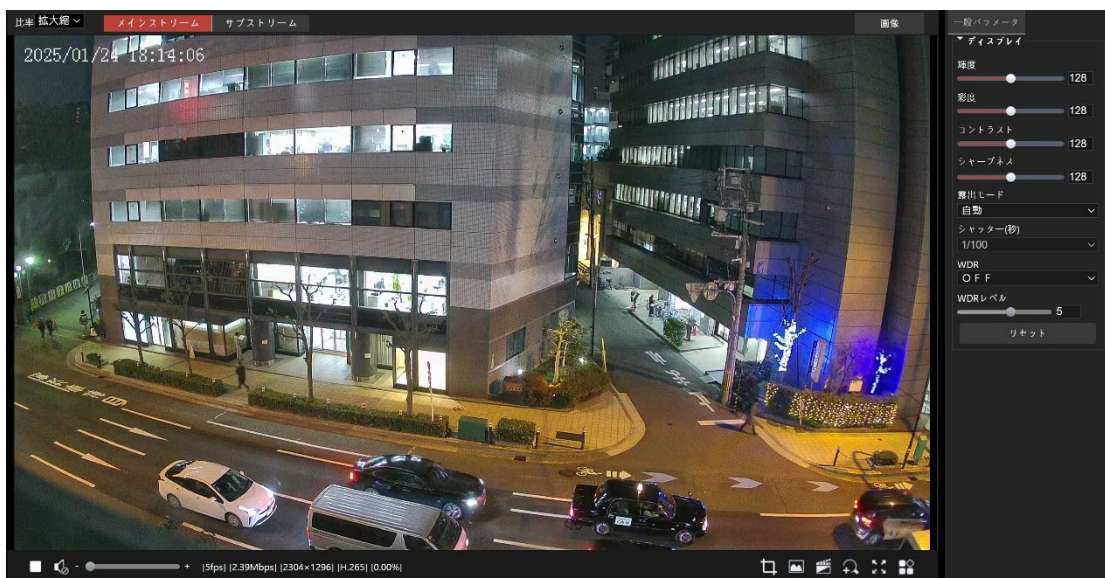
参考!

特定のデバイスでは最初のログイン後、クラウドサービスを有効化するかどうかを選択する必要がある場合があります。

2 ライブビュー

2.1 ライブビュー

ログインすると、ライブビューページが表示され、カメラからのライブビューが表示されます。ウィンドウをダブルクリックしたら、全画面モードに切り替わります。

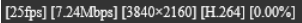


参考!

サポートするライブビューの操作はデバイスのモデルによって異なる場合があります。

ライブビューツールバー

項目	説明
	画像の表示比率を設定します。 - 拡大縮小：16:9の画像を表示します。 - 伸縮：ウィンドウのサイズに従って画像を表示します。 (画像はウィンドウに合わせて拡大されます) - オリジナル：画像を元のサイズで表示します。
	カメラによってライブビデオ画面を選択します。
	画像パラメータを設定します。
	ライブビューを開始/停止します。
	サウンドをオフ/オンにします。
	PCのメディアプレーヤーの出力音量を調整します。範囲：1~100

	PCの音量を調整します。 範囲: 1~100
	フレームレート/ビットレート/解像度/パケットロス率。
	ピクセルの計算を活性化、非活性化します。
	表示されたライブビューからスナップショットを撮ります。
	ローカル(パソコンへの)録画を開始/停止します。 参考! 4Kカメラからのローカル録画を再生するためにVLCメディアプレーヤーをお勧めします。
	双方向オーディオを開始/停止します。
	デジタルズームを開始/停止します。
	キャプチャを開始/停止します。
	全画面表示。
	コントロールパネルの[一般パラメータ]タブを表示または非表示にします。

2.1.1 ピクセルの計算

1. ライブビューツールバーで  をクリックしてピクセルカウントを行います。

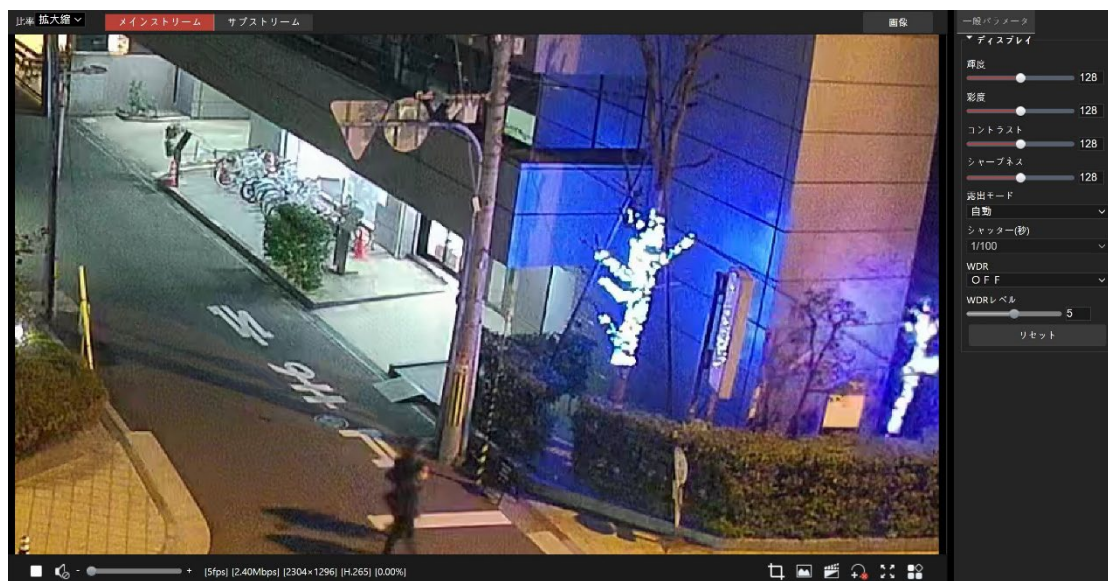


2. 検出領域の位置とサイズを調整します。検出領域のサイズによって、ピクセル値が変化します。
- 検出領域の位置を調整するには、領域の境界をポイントし、希望する位置にドラッグします。

- 検出領域のサイズを変更するには、ボックスのハンドルをポイントし、ドラッグしてサイズを変更します。
 - 検出領域を再設定するには、画像をクリックしてドラッグし、新しい画像を作成します。
3. ピクセルカウントを停止したい場合  をクリックします。

2.1.2 デジタルズーム

1. ライブビューツールバーで  をクリックしてデジタルズームを行います。



2. 拡大された領域が表示されます。
- ライブビューのウィンドウをクリックし、ホイールを回して画像を拡大または縮小します。
- ドラッグすると、ズームインしたすべての領域が表示されます。
3. 終了するには  をクリックしてください。

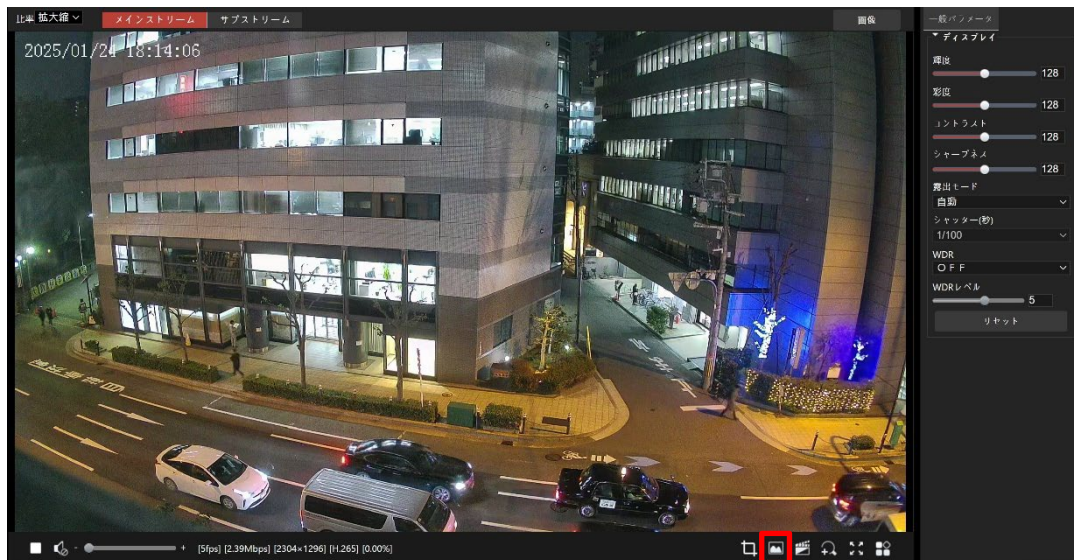
2.1.3 スナップショット



参考!

この機能は一部のモデルでは利用できない場合があります。

1. ライブビューツールバーで  をクリックしてキャプチャを行います。



2. キャプチャされたイメージを表示します。

- **写真**をクリックしてライブビューからキャプチャした画像を表示します。画像はJPEG形式で保存されます。

表示されない場合は、**設定>共通>ローカルパラメータ>録画・スナップショット>フォルダ**で「開く」をクリックして保存フォルダから検索することができます。ディスク上の空き領域が100MB未満の場合は、自動スナップショットポッドをクリアするように求められ、新しいスナップショットは空きディスク領域が作成されるまで表示されません。

- キャプチャされた画像を削除するには**削除**をクリックします。

2.2 PTZ コントロール



参考!

- この機能はPTZカメラまたはパン/チルトモーターがインストールされたカメラでのみ利用できます。
- レンズコントロール機能の一部は、電動レンズを搭載したカメラに適用されます。
- PTZコントロールはカメラモデルによって異なる場合があります。

PTZ コントロールツールバー

項目	説明
	画像を拡大/縮小します。
	遠距離/近距離にフォーカスを合わせます。
	カメラに入る光の量を増減して、画像が明るく/暗くなります。
	シーンロックは、パン/チルトと再表示をフリーズして、ズーム比とシーンが誤って変更されるのを防ぐために使用されます。 注意! シーンロックオンすると、カメラは移動せず、ズームもフォーカスも合わせられません。
	3Dポジショニング。
	フォーカス。
	エリアフォーカス。
	PTZカメラの移動速度を調整します。
	PTZカメラの方向を制御します。
	カメラのズームを調整します。
	PTZコントロールのショートカットキー。ライブビューでカーソルの形がこれらの形状のいずれかに変化したら、左マウスボタンを押しながらPTZカメラを操作します。 参考! 3Dポジショニングまたはデジタルズームを使用している場合は、これらのボタンは使用できません。

	ライブビューにおける拡大縮小用ショートカットキー。 ホイールを前方にスクロールすると拡大され、後方にスクロールすると縮小されます。 注意： この機能は、電動ズームレンズを搭載したカメラでのみサポートされます。
---	--

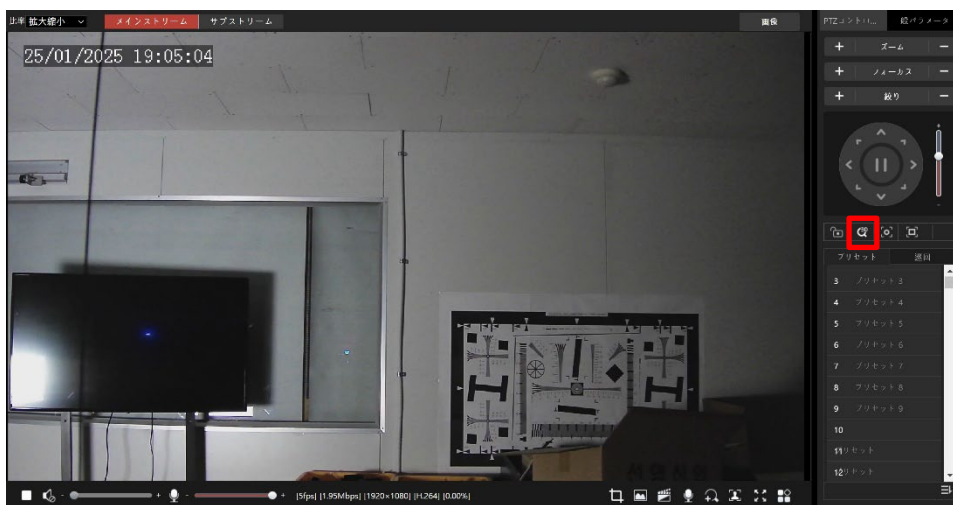
2.2.1 3Dポジショニング



参考!

この機能はPTZが装備されたカメラでのみ利用できます。

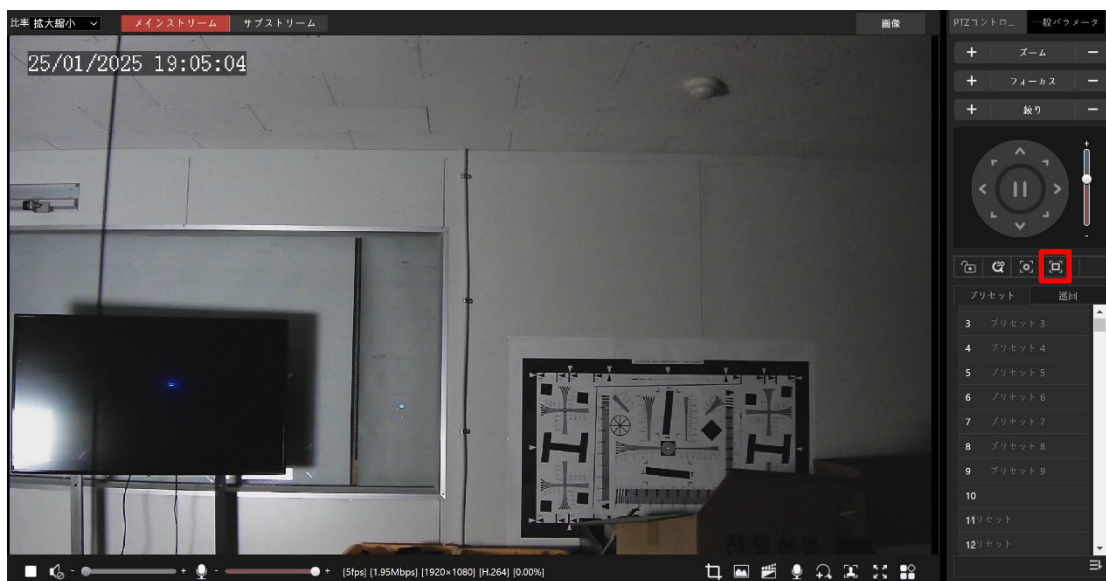
1. PTZコントロールパネルで  をクリックして3Dポジショニングを行います。



2. マウスのボタンを押しながら上から下へドラッグして（長方形を描いて）エリアを指定します。
逆に（下から上に）ドラッグすると、縮小されます。
3. 終了するには  アイコンをクリックします。

2.2.2 エリアフォーカス

1. PTZコントロールパネルで  をクリックしてエリアフォーカスを行います。



2. マウスのボタンを押しながら上から下へドラッグして（長方形を描いて）エリアを指定します。
3. 終了するには  アイコンをクリックします。

2.2.3 プリセット

プリセットはPTZカメラを特定の場所にすばやく誘導するために使用される保存されたビューです。

PTZコントロールパネルで、[プリセット]をクリックします。

- プリセットを追加する。

1. PTZ方向キーをクリックしてカメラを希望の方向を向くまでカメラを調整します。
2. 使用していないプリセットを選択して  をクリックしたらプリセットの名前が編集できます。
3.  をクリックして保存します。

- プリセットに進む。

プリセットで  をクリックします。

- プリセットを削除する。

プリセットで削除するプリセットを選択し  をクリックします。

- プリセットを並べ替える。

プリセットのリストで  をクリックします。プリセットのリストを並べ替えます。

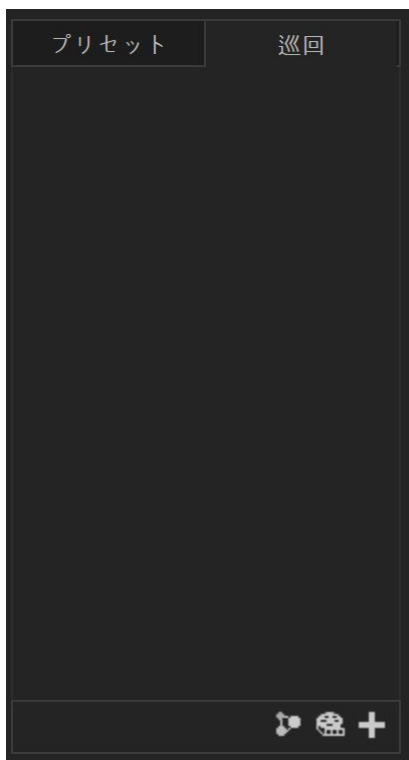


2.2.4 巡回

1つのプリセットから次のプリセットに移動したときにPTZカメラがフォローするトラックを指しています。PTZカメラが各プリセットに滞在する時間を設定することができます。1台のPTZカメラで複数の巡回ルートを設定することができます。

1. 巡回ルートの追加

1. PTZコントロールパネルで巡回をクリックします。



[illegible]

ル-

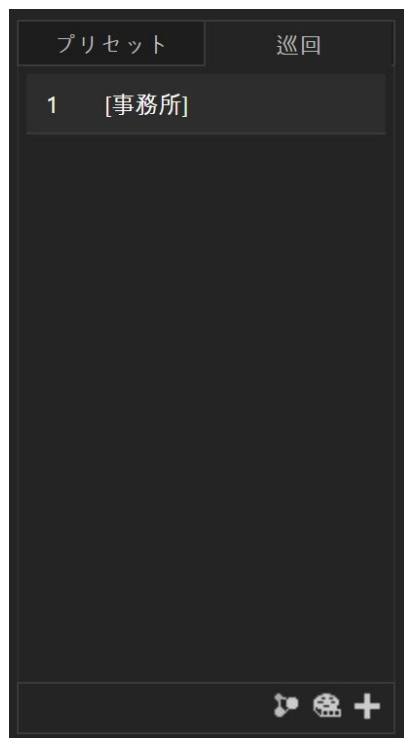
巡

[illegible]

5. 設定を完了します。

項目	説明
アクションタイプ	上、下、左、右、右上、右下、左上、左下、ズーム、プリセットへ移動が可能です。 最大64個のアクションが追加できます。 参考! 最初のアクションタイプとしてプリセットへ移動が推奨されます。
スピード	スピード。1～9の速度レベル
回転	カメラは回転し続けます。
所要時間/比率	所要時間/ズーム比を設定します。
プリセット	カメラを移動するプリセットを選択します。
滞在時間	カメラがアクションを実行した後、滞在時間を設定します。 範囲:15秒～1,800秒 注意! サポートされている実際の滞在時間は、カメラによって異なる場合があります。

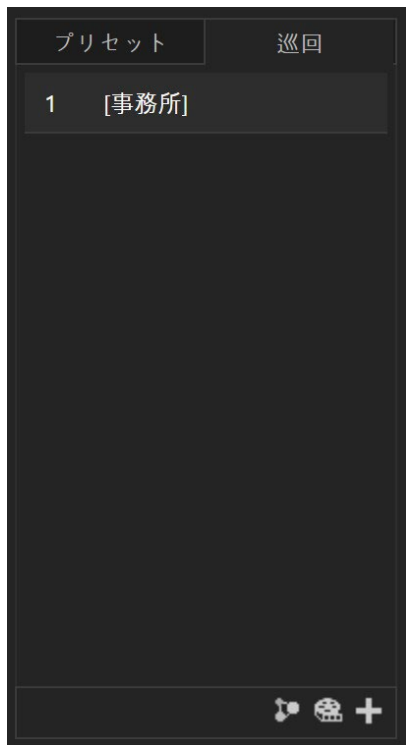
6. **確認**をクリックします。



項目	説明
	巡回を開始します。
	巡回ルート編集します。
	巡回ルートを削除します。

- 巡回記録

1. PTZコントロールパネルで**巡回**をクリックします。



2. 録画を開始するには  をクリックします。録画中にカメラの回転、方向速度、ズームを調整できます。カメラの全ての移動データが録画されます。

3.  をクリックしたら録画が終了され、巡回ルートで自動保存されます。

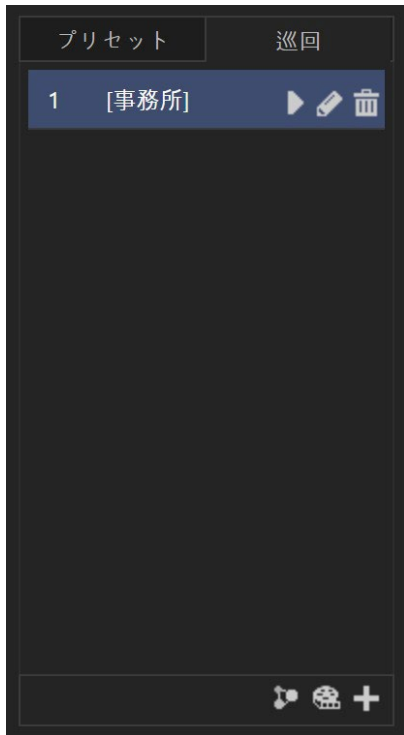
2. 巡回ルート呼び出し

手動呼び出しはスケジュールされた呼び出しよりも優先されます。

- 手動呼び出し

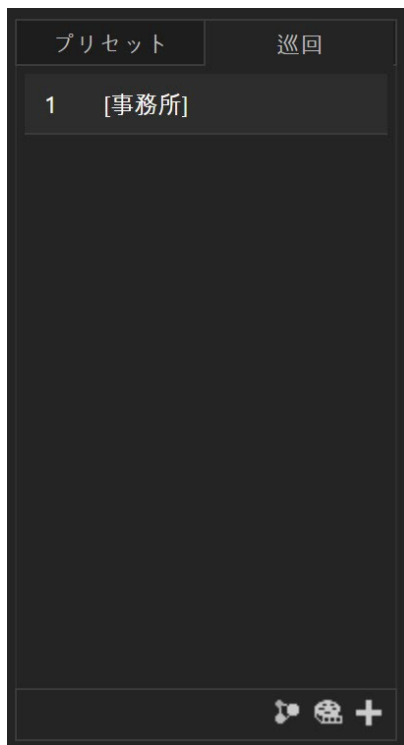
1. PTZコントロールパネルで**巡回**をクリックします。

呼び出しする巡回ルートを選択し  をクリックして巡回を始めます。



- 巡回計画の呼び出し

1. PTZコントロールパネルで巡回をクリックします。



2.  をクリックします。

巡回計画

■ 巡回スケジュール

月	火	水	木	金	土	日
		~				選択してください
		~				選択してください
		~				選択してください
		~				選択してください
		~				選択してください
		~				選択してください
		~				選択してください
		~				選択してください

コピー先 ☐ すべて選択

☒ 月 ☐ 火 ☐ 水 ☐ 木 ☐ 金 ☐ 土 ☐ 日

コピー

確認 キャンセル

- 巡回スケジュールを選択します。
- 呼び出しする巡回ルートを選択し、開始時間と終了時間を設定します。
- 確認をクリックします。

2.3 一般パラメータ

イメージ効果を直接表示する場合はデフォルトのパラメータを設定します。

ライブビューで一般パラメータをクリックします。

▼ ディスプレイ

輝度 128

彩度 128

コントラスト 128

シャープネス 128

露出モード

シャッター(秒)

WDR

WDRレベル 5

リセット

3 再生



参考!

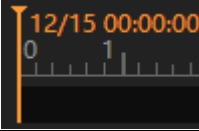
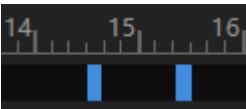
- エッジストレージとはフロントエンドデバイス（ほとんどの場合カメラ）のメモリカードへの録画を指しています。
ローカル録画とはローカルPCクライアントへのビデオ録画を指しています。
- エッジストレージでビデオを再生する前に、カメラにメモリカードがインストールされ、ストレージが設定されていることを確認してください。
- この機能は一部のモデルではサポートされません。

再生をクリックします。



3.1 再生ツール

項目	説明
	音量を調整します。範囲: 1~100。
	再生します。
	再生を一時停止します。
	再生を停止します。
	ビデオを切り取りします。
	保存します。
	再生速度を調整します。 デフォルトの速度は1倍速です。2倍速は速く、1/2倍速は遅く再生します。
	スナップショットを撮ります。スナップショットは、デフォルトではローカルに保存されます。 保存場所はローカルパラメータで変更できます。

	デジタルズーム。
	クロックスケールをズームインおよびズームアウトします。 スクロールホイールを使用してズームすることもできます。
	 または  をクリックしてビデオの次のセクションを表示できます。
	再生ヘッド。再生ヘッドをドラッグして、ビデオ内の見たい録画画面にスキップします。
	再生タイムライン： ● 青:一般録画。 ● 赤:アラーム録画。 アラーム録画を表示するには、アラームによってトリガーされる録画を構成する必要があります。

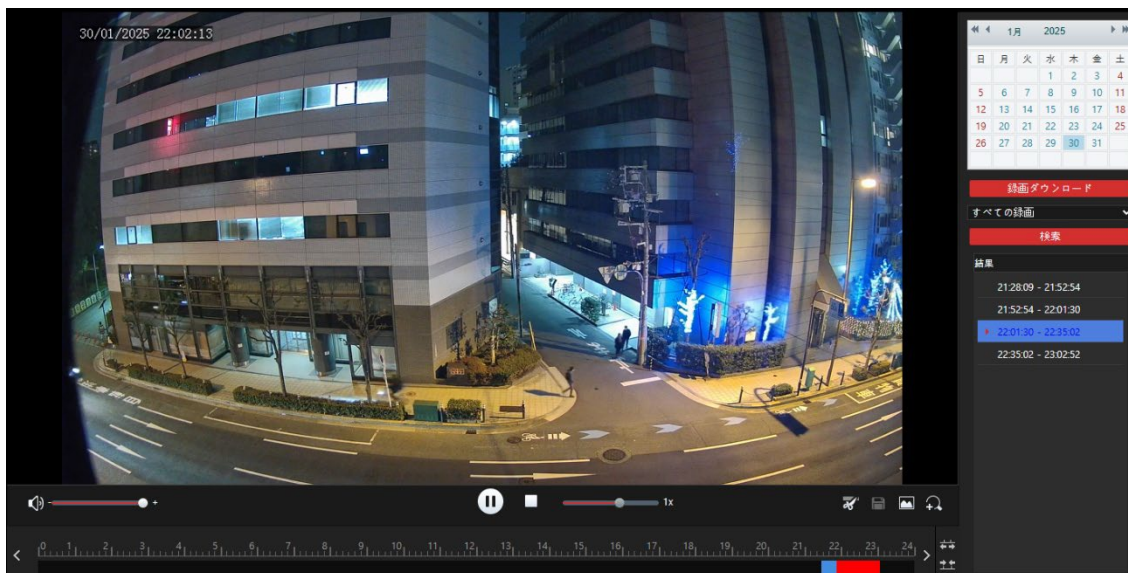
3.2 検索及び再生



参考!

特定のカメラは、両方のクライアントでの同時再生をサポートしています。

1. まず**再生**を選択します。
2. カレンダーで日付を選択します。
3. リストで**すべての録画**を選択するか、**アラーム録画**を選択して検索したい録画のタイプを選択します。
4. **検索**をクリックします。検索結果が表示されます。



5. リスト内の項目をダブルクリックすると再生されます。

3.3 録画ダウンロード

ビデオやビデオクリップを一括でダウンロードできます。

● 録画ダウンロード

1. **再生** > **録画ダウンロード**をクリックします。
2. 録画タイプを選択し時間範囲を設定して**検索**をクリックします。検索結果が表示されます。



3. **録画タイプ**を選択してから検索をクリックしてダウンロードする対象を設定します。

4. ダウンロードしたい対象を選択して**ダウンロード**をクリックします。

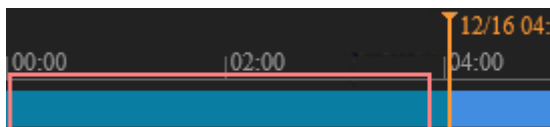
- ビデオクリップダウンロード

1. 切り取りするビデオを検索します。

2. 再生ツールバーの  をクリックします。

3. タイムラインをクリックすると開始時刻と終了時刻を設定して時間の指定ができます。

4.  をクリックします。クリップがタイムラインで緑色に変わります。



5.  をクリックします。録画ダウンロードページが表示されます。

録画ダウンロード

録画タイプ **アラーム録画** **検索**

アラームタイプ **動体検知**

☐	番号	開始時刻	終了時刻
☐	1	2025-01-30 21:36:40	2025-01-30 21:38:40

ダウンロード

- 録画タイプで**すべての録画**を選択するか、**アラーム録画**を選択して検索したい録画のタイプを選択し、検索をクリックします。
- リストからダウンロードするファイル選択して**ダウンロード**をクリックします。

4 写真



参考!

この機能は、セーブ機能を搭載したカメラでのみ使用できます。



写真をクリックします。

項目	説明
更新	再び表示される内容を更新します。
書き出し	選択した写真を書き出します。
削除	選択した写真を削除します。
エクスポート&削除	選択した写真をエクスポートし、サーバーから削除します。
昇順	昇順並び。
降順	降順並び。
Common Server	一般のスナップショットを保存するためのフォルダーです。



参考!

設定 > ストレージ > ストレージ で写真の容量の設定を行います。

5 設定

5.1 ローカルパラメータ

PCにローカルパラメータを設定します。



参考!

ローカルパラメータはカメラによって異なることがあります。

1. 設定 > 共通 > ローカルパラメータ

2. 必要に応じて設定を変更します。

項目		説明
ビデオ	表示モード	遅延最小, バランス, なめらか, カスタム ネットワーク条件に基づいて表示モードを設定します。必要に応じて、表示モードをカスタマイズすることもできます。
	プロトコル	メディアストリームを送信してPCでデコードする際に使用されるプロトコル。 (TCP,UDP)を設定します。

録画・ スナップショット	録画	● サイズ分割：コンピュータに保存されている各録画ファイルのサイズです。 例：5M。 ● 時間分割：コンピュータ内の各録画ファイルの録画済みビデオの再生時間です。 例：2分。
	分割時間（分） 分割サイズ（MB）	● 時間分割：1～60分 ● サイズ分割：10～1,024MB
	録画容量不足の場合	● 上書き：コンピュータ内で割り当てられているストレージスペースを使い果たした場合、カメラは新しい録画ファイル用のスペースを作るため、既存の録画ファイルを削除します。 ● 録画を停止します：コンピュータ内で割り当てられているストレージスペースがいっぱいになると、自動的に録画が停止します。
	総容量(GB)	ローカル録画用のストレージ容量を確保します。 1～1,024GB
	ローカル録画	TS ファイル形式をローカル録画ストレージ用に設定します。
	フォルダ	スナップショットと録画の保存ルートです。容量上限を上回ると、ライブビューでの録画やスナップショットが失敗し、画面にメッセージが表示されます。

3. 保存をクリックします。

5.2 ネットワークの設定

5.2.1 基本構成

カメラが他のデバイスと通信できるように、カメラのIPアドレスなどの通信設定を変更します。

1. イーザネット

1. **設定 > ネットワーク > 基本設定**に移動します。

2. イーザネットパラメータを構成します。

- IPv4

- 固定IP (手動IP)

(1) **IPアドレスを取得**ドロップダウンリストから**手動 (固定IP)**を選択します。

(2) IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。

ネットワーク内で、カメラのIPアドレスが一致している必要があります。

(3) **保存**をクリックします。

IPv4

IPアドレスを取得 **手動**

IPアドレス

サブネットマスク 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ

IPv6

モード **手動**

アドレス

プレフィックス長 64

デフォルトゲートウェイ

基本

MTU 1500

ポートタイプ FEポート

操作モード オート

保存

- PPPoE

動的IP

(1) **IPアドレスを取得**ドロップダウンリストから**PPPoE**を選択します。

(2) ISP(インターネットサービスプロバイダー)から提供されたユーザー名とパスワードを入力します。

(3) **保存**をクリックします。

IPv4

IPアドレスを取得 PPPoE

IPアドレス 0.0.0.0

ユーザー名 user

パスワード: *****

確認 *****

IPv6

モード DHCP

基本

ポートタイプ FEポート

操作モード オート

保存

➤ DHCP

カメラの出荷時には、デフォルトでダイナミック・ホスト・コンフィギュレーション・プロトコル（DHCP）が有効になっています。ネットワークにDHCPサーバが展開されている場合、カメラは自動的にDHCPサーバからIPアドレスを取得することができます。手動でDHCPを設定するには、以下の手順に従ってください。

(1) **IPアドレスを取得**ドロップダウンリストから**DHCP**を選択します。

(2) **保存**をクリックします。

IPv4

IPアドレスを取得 DHCP

IPv6

モード DHCP

基本

MTU 1500

ポートタイプ FEポート

操作モード オート

保存

- IPv6
 - DHCP

デフォルトは **DHCP** です。

IPv6

モード DHCP ▼

- 手動

IPv6

モード 手動 ▼

アドレス

プレフィックス長 64

デフォルトゲートウェイ

(1) **手動**を選択します。

(2) IPv6アドレスを入力し、プレフィックス長とデフォルトゲートウェイを設定します。

3. MTU値, ポートタイプを設定します。

- MTU： 最大転送単位。値が大きいほど通信効率が高くなり、配送遅延が長くなります。
- ポートタイプ： デフォルトのタイプは**FEポート**です。
- 操作モード: デフォルトは**オート**です。

基本

MTU 1500

ポートタイプ FEポート ▼

操作モード オート ▼

4. **保存**をクリックします。

2. DNS

DNS サービスを使用するには、DNSサーバー情報を構成する必要があります。

1. **設定 > ネットワーク > 基本設定 > DNS** に移動します。
2. DNSサーバアドレスを設定します。

優先DNS サーバー 8.8.8.8

代替DNS サーバー 8.8.4.4

3. DDNS

1. **設定 > ネットワーク > 基本設定 > DDNS**に移動します。
2. **DDNSサービス**を有効にします。

3. DDNSタイプを選択します。
 - DynDNS/NO-IP: サードパーティのDDNSサービスプロバイダー。

DDNSサービスプロバイダーから提供されたサーバーアドレスとドメイン名を入力します。
 - MyDDNS: サードパーティのDDNSサービス。ドメインの名を入力します。
4. **保存**をクリックします。

4. ポート

1. **設定 > ネットワーク > 基本設定 > ポート**

2. デフォルトのポートで使用できます。
入力ポートが別のサービスに使用されている場合、ポートを変更する必要があります。



注意!

- HTTPポート番号が別のサービスで使用されている場合は、ポートの衝突を通知するメッセージが表示されます。23、81、82、85、3260、および 49152 は異なる目的で割り当てられているため、使用できません。
- 上記のポート番号に加えて、システムはすでに使用されている他のポート番号を自動的に検出できます。

- HTTP/HTTPS ポート: HTTP/HTTPS ポート番号を変更する場合は、ログインする時IPアドレスの後に新しいポート番号を追加する必要があります。たとえば、HTTPポート番号を88に設定した場合、カメラにログインするには `http://192.168.1.13:88` を使用する必要があります。
 - RTSP ポート: ライブストリーミングプロトコルポート, 使用可能なポート番号を入力します。
3. **保存**をクリックします。

5. ポートマッピング

インターネットでLANにあるカメラにアクセスできるようにポートマッピングします。

1. **設定 > ネットワーク > 基本設定 > ポートマッピング**
 2. **ポートマッピング**を有効にします。
 3. **マッピングタイプ**を選択します。
- UPnP

ポートタイプ	外部ポート	グローバルIP	状態
HTTPポート	80	0.0.0.0	無効
RTSPポート	554	0.0.0.0	無効
HTTPSポート	443	0.0.0.0	無効

- **ポートマッピング**を有効にし、**マッピングタイプ**を選択します。

- 手動

ポートマッピング	☒ ON ☐ OFF
マッピングタイプ	手動 ▼
HTTPポート	80
RTSPポート	554
HTTPSポート	443

- **手動**が選択された場合、外部ポートを設定する必要があります。

(外部IPはカメラによって自動的に取得されます。)

設定されたポートが占有されている場合、非アクティブと表示されます。

4. **保存**をクリックします。

6. 802.1x

802.1xはネットワークに接続する際に、デバイス（カメラなど）に認証を要求します。

認証を受けたデバイスのみがネットワークに接続できます。これによってセキュリティが向上します。

1. **設定 > ネットワーク > 基本設定 > 802.1x**

2. **802.1x**を有効にします。

3. プロトコルタイプを選択します。

- EAP-MD5

802.1x	☒ ON ☐ OFF
プロトコル	EAP-MD5 ▼
EAPOL バージョン	1 ▼
ユーザー名	admin
パスワード	
確認	

- (1) **On** を選択し、他の設定を完了します。

- (2) **保存**をクリックします。

- EAP-TLS

802.1x ☒ ON ☐ OFF

プロトコル EAP-TLS

EAPOL バージョン 1

ユーザー名 admin

クライアント証明書 default

CA証明書

(1) ネットワークスイッチのプロトコルバージョンに従ってEAPOLバージョンを選択します。

(2) ユーザー名を入力します。

(3) クライアント証明書とCA証明書を選択するには ▼ をクリックします。

4. **保存**をクリックします。

5.2.2 サービス設定

1. Eメール

アラームが発生したら、指定したメールアドレスにカメラからアラームメッセージを送信できるようにEメールを設定してください。

1. 設定 > ネットワーク > サービス設定 > Eメール

送信者

送信者名

アドレス

SMTP サーバー

SMTP ポート 25

TLS/SSL ☐ ON ☒ OFF

スナップショットの间隔(...) 2 ☒ 添付画像

サーバー認証 ☒ ON ☐ OFF

ユーザー名

パスワード:

確認

2. 発信者、受信者の情報を入力します。

受信者

送信者名1

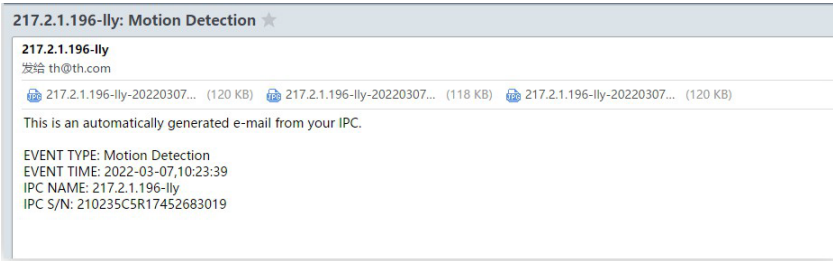
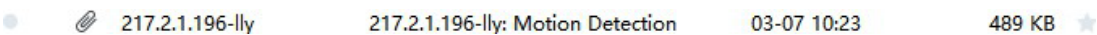
アドレス1 テスト

送信者名2

アドレス2 テスト

送信者名3

アドレス3 テスト

項目	説明
送信者名	デバイス名を入力します。
アドレス	デバイスIPを入力します。
SMTPサーバー/ポート	発信者のSMTPサーバーのIPアドレス及びポート番号を入力します。 デフォルトSMTPポート番号は25です。
TLS/SSL	有効にすると、プライバシーを保護するために、電子メールは、 TLS（トランスポート・レイヤー・セキュリティ）またはSSL（セキュア・ソケット・レイヤー）で暗号化されます。 電子メールは、まずSSL接続を通じて送信しようとします。SMTPサーバがSSLをサポートする場合、電子メールはSSL接続を通じて送信されます。サポートされない場合は、STARTTLS を使用して送信しようとします。
スナップショットの間隔	スナップショット間隔を選択します。: 2秒, 3 秒, 4秒又は5秒
添付画像	有効になるとアラームがなった後、設定された間隔で取得されたスナップショット(デフォルトは3)と共にアラームEメールが送信されます。  1. 添付画像を選択します。 2. 必要に応じてスナップショットを有効にして解像度を設定します。
サーバー認証	Eメール転送保安のためSMTPサーバー認証を有効にします。
ユーザー名/パスワード	SMTP サーバのユーザ名とパスワードを入力します。 参考! - Eメールには発信者の名前が表示されます。ユーザー名は表示されません。  - パスワードには、¥ / : の各特殊文字が使用できます。* ? ' " < > % &
受信者名/アドレス	1. 受信者の名前とEメールを入力します。 2. Eメール転送をテストするにはテストをクリックします。

3. **保存**をクリックします。

送信者

送信者名

217.2.1.196

アドレス

217.2.1.196

SMTP サーバー

217.2.18

SMTP ポート

25

TLS/SSL

☒ ON
☐ OFF

スナップショットの間隔(...)

2

▼

☒ 添付画像

サーバー認証

☐ ON
☒ OFF

ユーザー名

th@th.com

パスワード:

....

確認

....

受信者

送信者名1

th@th.com

アドレス1

th@th.com

テスト

送信者名2

アドレス2

テスト

送信者名3

アドレス3

テスト

2. SNMP

SNMP(Simple Network Management Protocol)を利用すると管理サーバーからカメラを遠隔で管理することができます。

設定 > ネットワーク > サービス設定 > SNMP

SNMP

☒ ON
☐ OFF

保存

1. **SNMP**を有効にするには**ON**をクリックします。



参考!

特定のデバイスモデルでは、最新バージョンにアップグレードした後、SNMPが有効になります。これは正常です。

2. SNMPのパラメータを設定します。

- SNMPv3



参考!

SNMPv3 を有効にする前、カメラとサーバーの両方でSNMPv3がサポートされていることを確認します。

SNMP ☐ ON ☒ OFF

SNMPタイプ

ユーザー名

認証モード

パスワード:

確認:

暗号化モード

パスワード:

確認:

トラップコミュニティ名

トラップサーバーアドレス

トラップポート

SNMPポート

項目	説明
SNMPタイプ	デフォルトは SNMPv3 です。
パスワード	認証パスワードを設定します。
確認	入力したパスワードを再入力して確認します。
パスワード	パスワードを設定します。
確認	入力したパスワードを再入力して確認します。
トラップサーバーアドレス	管理サーバー構成が完了されたら自動的に検索されます。
SNMPポート	デフォルトは161です。変更できます。

● SNMPv2

SNMP ☐ ON ☒ OFF

SNMPタイプ

読み出し専用コミュニティ

読み書きコミュニティ

トラップコミュニティ名

トラップサーバーアドレス

トラップポート

SNMPポート

項目	説明
SNMPタイプ	SNMPv2 を選択すると潜在的なリスクの可能性が通知されます。 SNMPv2を選択するには 確認 をクリックしてアラームを無視します。
読み出し専用コミュニティ	デフォルトは public です。 必要に応じて変更できますが、サーバー上でも変更する必要があります。変更しないと失敗します。

トラップサーバーアドレス	設定 > ネットワーク > プラットフォームアクセス > サーバー管理に移動してサーバー住所を構成します。
SNMPポート	デフォルトは 161 です。変更できます。

3. **保存**をクリックします。

3. QoS

QoS サービスの質は、指定のネットワーク通信のサービスを向上する機能です。ネットワークの遅延やブロックなどの問題を回避するためのネットワークセキュリティ機構として、QoS が使用されます。ネットワークが過負荷になった場合でも、QoSによって、重要なサービスが遅延したり中断することなく、効率的にネットワークが動作します。

1. 設定 > ネットワーク > サービス設定 > QoS

音声と映像	46
アラームレポート	0
設定管理	0
FTP	4

2. 各サービスに優先レベル（0～63）を設定します。現在QoS によって、音声とビデオ、アラームレポート、設定管理、FTP 転送に、別々の優先順位を割り当てることができます。値が大きいほど、優先順位が高くなります。たとえば、音声とビデオを60に、アラームレポートと設定管理を0に、FTPを4に設定した場合、ネットワークが混雑しても、優先順位の高い音声とビデオが、スムーズに動作します。



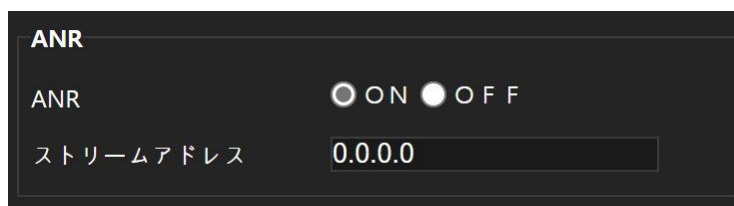
参考!

QoS を使用する際には、スイッチがQoSモードをサポートすることを確認してください。

3. **保存**をクリックします。

4. ANR(ONVIF/一部モデル)

カメラとStream Address間のネットワーク接続が失われた場合、カメラは設定された録画スケジュールに従ってビデオを保存できます。ネットワーク接続が復元された後、カメラはStream Addressの要求に応じて、中断されたビデオを連続アドレスに再ストリーミングすることができます。



5.2.3 プラットフォーム アクセス

1. インテリジェント プラットフォーム

カメラからスナップショットを受信できるようにインテリジェントプラットフォームを設定します。

カメラは2つのインテリジェントサーバーで管理できます。

ローカルスナップショットは、サブスクリプションの数が上限に達すると有効できなくなります。

ローカルスナップショットが有効された場合、サブスクリプションの数が上限に達すると、優先度の高いサブスクリプションが優先され、ローカルスナップショットは無効されます。



参考!

- サポートするサブスクリプションの数はカメラによって異なります。
- プラットフォームのサブスクリプションの優先順位：
プラットフォーム1 > プラットフォーム2 > LAPI サブスクリプション > WebSocket サブスクリプション

- FTP

1. **設定 > ネットワーク > プラットフォームアクセス > インテリジェントプラットフォーム**

2. **有効**を選択します。

3. プロトコルで**FTP**を選択します。



4. **FTPを設定**をクリックします。

FTPを設定

サーバーパラメーター

サーバーIP

0.0.0.0

ポート番号

21

ユーザー名

パスワード:

確認

画像アップロード

☒

カスタム命名規則

☐

UTF 8形式に変換する

☐

テスト

保存先:

ファイルパス

ファイル名:

番号	命名要素
1	無効
2	無効
3	無効
4	無効
5	無効
6	無効

確認

キャンセル

5. サーバーパラメータを設定します。

項目	説明
サーバーIP	FTPサーバーのIPアドレスを入力します。
ポート番号	デフォルト値の21を使用します。
ユーザー名	FTPサーバーへの接続に使用するユーザー名を入力します。
パスワード	FTPサーバーへの接続に使用するパスワードを入力します。
テスト	FTPサーバーへの接続をテストする場合にクリックします。
画像アップロード	スマートスナップショットアップロードを有効にするには選択します。 上書き: 最下位のフォルダーの写真数が設定されたしきい値に達すると、新しい写真が旧写真を上書きします。 参考! 上書きを選択するには、ファイルの最後の名前指定要素がイメージシーケンス番号であることを確認してください。 - 上書き(イメージ): デフォルトは1,000枚で最大は100,000枚です。
カスタム命名規則	名前の命名規則をカスタマイズできます。
UTF8形式に変換する	選択すると経路がUTF8形式に変換されます。

6. イメージ保存ルートを構成します。

項目	説明
ファイルパス	最大6つのレベルまで設定できます。設定しない場合、デフォルトルート「/IP/Date/Intelligent」が使用されます。ここでの「インテリジェント」とは、スマートスナップショットを意味します。
ファイル名	最大20個まで設定できます。設定しない場合、「1, 2, 3」ような番号がファイル名になります。

7. 確認をクリックします。

2. P2P

P2Pでカメラを追加すると携帯などでのライブビュー、再生、カメラの構成などができます。

1. 設定 > ネットワーク > プラットフォームアクセス > P2P

P2P	☒ ON ☐ OFF
暗号化	☒ ON ☐ OFF
サインアップなしで追加	☐ ON ☒ OFF
アドレス	www.star4live.com
登録コード	3186SX6WYP0JCXNIIY3O4MWAV
デバイス状態	オフライン
スキャン	

2. P2Pを有効にします。

項目	説明
P2P	ONにすることで、サーバー経由でアプリにデバイスを追加することができます。この時、デバイスがネットワークに接続されている必要があります。
暗号化	暗号化のON,OFF設定を行います。
サインアップなしで追加	デバイス追加時にサインアップが必要かどうかを設定します。
アドレス	サーバーのアドレスが表示されます。
登録コード	デバイス追加に必要な登録コードです。スキャンのQRコードを読み取ると、このコードが表示されます。
デバイス状態	デバイス状態がオンラインの場合、QRコードを使用してアプリにデバイスを追加することができます。

スキャン	アプリにデバイスを追加するときに読み取ります。アプリからQRコードを読み取る必要があります。
------	--

3. WebSocket

WebSocketを使用すると、カメラをサードパーティのプラットフォームに接続し、デバイスの検証や機能の表示、PTZ制御、アラームの取り付けなど、サードパーティのプラットフォームからカメラをリモートで管理できます。

1. 設定 > ネットワーク > プラットフォームアクセス > WebSocket



2. パラメータを設定します。

項目	説明
Webソケット	Webソケットを有効・無効にするか選択します。
宛先IP	サードパーティプラットフォームのIPアドレスを入力します。
宛先ポート	サードパーティプラットフォームのリスナーポートを入力します。
デバイスID	デフォルトのデバイスIDはデバイスの番号です。必要に応じてデバイスIDを設定できます。
認証キー	カメラをサードパーティのプラットフォームに接続するために使用するキーを入力します。カメラとサードパーティプラットフォームに設定されているキーと同じである必要があります。 参考! 最初にキーを有効せずカメラがプラットフォームに接続されてから有効にすると認証はすぐには適用されません。次にカメラがプラットフォームに正常に接続されたときに有効になります。
認証キーの確認	確認のためにキーをもう一度入力します。
オンライン状態	デバイスがサードパーティのプラットフォームに正常に接続されていることを確認します。

3. 保存をクリックします。

5.3 ビデオと音声

5.3.1 ビデオ

1. ビデオ

1. 設定 > ビデオを音声 > ビデオ



2. ストリームパラメータを設定します。

項目	説明
ビデオ圧縮	カメラに最適なビデオ圧縮規格を選択します。 H.265, H.264, MJPEG 参考! - H.265又はH.264が選択されている場合画質は使用できません。MJPEGが選択されている場合、ビットレート、Iフレーム間隔、平滑化、SVC、スマートエンコードは使用できません。 - ビットレートはH.264とH.265を切り替えるとデフォルトに復元されます。
解像度	カメラに適したビデオ解像度を選択します。解像度が高いほど、画像は鮮明になります。
フレームレート (fps)	フレームレートを選択します。 参考! 画質を確保するには、フレームレートをシャッタースピードの逆数より大きくしないでください。
ビットレート(Kbps)	ビットレートを選択します。範囲： 128~16,384 参考! 範囲は、デバイスのモデルによって異なる場合があります。
ビットレートタイプ	ビットレートのタイプを選択します。 - 固定ビットレート: カメラは、特定のビットレートを維持するためにビデオストリームの品質を変更します。 - 可変ビットレート: カメラはビットレートを変更して、ビデオストリームの品質を可能な限り高く保ちます。

画質	ビットレートタイプがVBRに設定されている場合構成できます。 スライダーが品質に近づくほど、ビットレートが高くなり、画質が向上します。 スライダーがビットレートに近づくほど、ビットレートは低くなり、画質への影響が大きくなります。
Iフレーム間隔	Iフレーム間のフレーム数を設定します。 間隔が短いほど、画質は向上し、消費される帯域幅とストレージスペースが大きくなります。
GOP	写真グループ、I と Pフレームで録画されたビデオストリームの基本パターンを定義します。
平滑化	スムーズの程度を設定します。削除を選択すると、平滑化が無効になります。 スライダーをスムーズの方向に動かすとスムージングレベルは増加しますが、画質が悪くなります。 参考! ネットワーク環境が悪い場合は、円滑なストリームのため平滑化機能をお勧めします。
SVC	SVC(スケーラブルビデオコーディング)で、再生画質を劣化させることなくストレージを減らすことができます。
スマートエンコード	– 基本モード：実際のビットレートは設定されたビットレートの約 3/4 です。 – アドバンスドモード：実際のビットレートは設定されたビットレートの約 1/2 です。 参考! – 有効になっている場合、H.264とH.265のビデオ圧縮のみがサポートされます。 MJPEGはサポートされません。 – 有効になっている場合、キャプチャモードは31以上のフレームレートをサポートしません。

3. 保存をクリックします。

2. 適応ストリーム

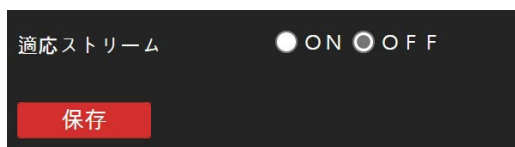
メディアストリームのビットレートはネットワークの状態に基づいて自動的に調整されます。



参考!

- この機能は、一部のモデルでは利用できない場合があります。
- この機能は基本的に特定モデルで有効になっています。
- ネットワークが悪い場合は、適応ストリームを有効にしてください。
- 適応ストリームを有効するには**設定>共通>ローカルパラメータ**でTCPプロトコルを選択する必要があります。

1. 設定 > ビデオと音声 > ビデオ > 適応ストリーム



2. 適応ストリームを有効にします。

3. 保存をクリックします。

5.3.2 スナップショット

スナップショットを構成します。

1. 設定 > ビデオと音声 > スナップショット



参考!

- EメールとFTPを設定する場合は、スナップショットを設定し解像度と最大サイズを設定する必要があり、スケジュールされたスナップショットを設定する必要はありません。

2. スナップショットを選択し、スナップショットの解像度と最大サイズを設定します。

3. スナップショットモードを設定します。

- スケジュール：スナップショット時間を設定します。例えばスナップショットの間隔を20秒に設定し、スナップショット枚数を3に設定し、スナップショット時間を16:00:00に設定した場合、カメラは16:00:00、16:00:20、16:00:40にスナップショットを撮ります。リストから選択するか、列挙された時間間隔に基づいて調整 $\pm$ し、クリックしてスナップショット時間を追加できます。

スナップショットの時刻を削除するには 🗑 をクリックします。

- **リピート** : スナップショットの間隔を設定します。例えばスナップショットのスケジュールが月曜日 16:00:00~20:00:00 に設定されてリピートが120秒に設定されてスナップショットの間隔が20秒で設定されてスナップショット枚数が2に設定された場合、カメラは 16:00:00, 16:00:20, 16:02:00, 16:02:20 にスナップショットを撮ります。

a **リピート**を選択して繰り返し間隔を設定します。リピート間隔は1~86400範囲内の数字です。

スナップショットの間隔*スナップショット数を間隔より大きくすることはできません。



スナップショット ☒ ON ☐ OFF

解像度 1920×1080 ▼

最大サイズ (KB) 300

スナップショットスケジュール

スナップショットの間隔(...) 1

スナップショット枚数 1 ▼

スナップショットモード ☒ スケジュール ☐ リピート

間隔(秒) 60

b **スナップショットプランを有効**を選択してスナップショットのスケジュールを設定します。



参考!

- 時間間隔を重複させることはできません。
- 最大4ギガバイトまで使用できます。

4. スナップショットの間隔 (秒)とスナップショットの数 (1、2、3) を設定します。
例えば、間隔が 1 秒で設定されてスナップショット数が 2 に設定された場合、カメラは 2 枚のスナップショットを撮ります。
(スナップショット 1 枚をまず撮って 1 秒後またスナップショットを撮ります。)
5. **保存**をクリックします。

5.3.3 音声

1. 音声

1. 設定 > ビデオと音声 > 音声

音声入力

音声入力 ☒ ON ☐ OFF

接続モード ライン/マイク ▾

入力ボリューム 50

音声圧縮 G.711U ▾

サンプリングレート (KHz) 8 ▾

ノイズサプレス ☒ ON ☐ OFF

チャンネル1 Line ▾ ☒ 有効

音声出力

音声出力 ライン ▾

出力ボリューム 95

保存

2. 音声入力パラメータを設定します。

項目	説明
音声入力	音声入力を有効/無効し選択します。 参考! 音声が必要な場合は、カメラのパフォーマンスを向上させるために音声をオフにすることを検討してください。
接続モード	ライン/マイク や RS485 などの音声入力モードを選択します。 参考! この機能は、デュアルチャンネルカメラでは使用できません。
入力ボリューム	スライダーをドラッグするか、値を入力して入力音量を設定します。
音声圧縮	音声圧縮形式を選択します。 G.711U , G.711A .
サンプリングレート(KHz)	サンプリングレートを選択します。8KHz / 16KHz。サンプリングレートが速いほど、音質は良くなります。
ノイズサプレス	この機能のデフォルト値は有効です。ノイズを減らし、音声出力の品質を向上させることができます。
チャンネル1	チャンネル1にオーディオ入力を有効するには 有効 を選択します。 チャンネル1は Mic (デフォルト)と Line をサポートします。

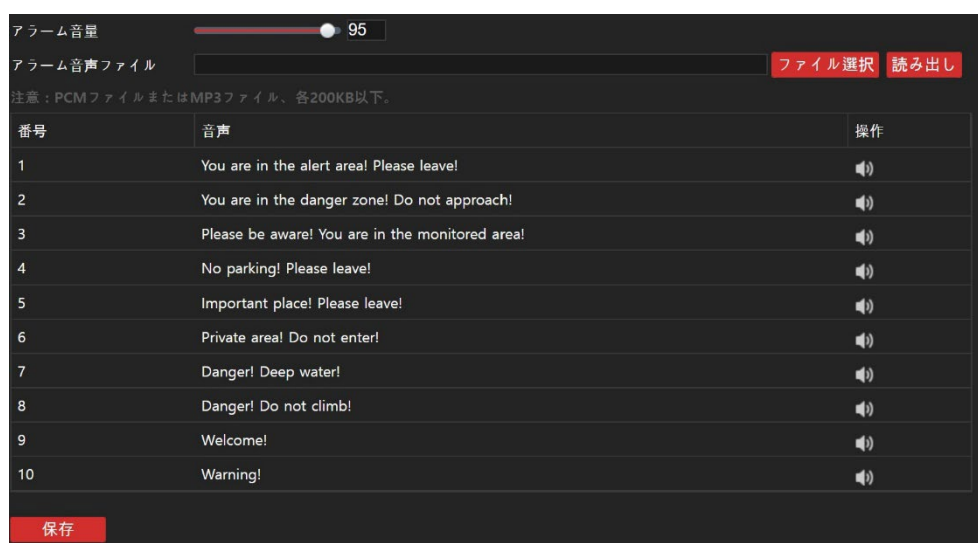
3. 音声出力パラメータを設定します。(一部モデル)

項目	説明
音声出力	音声出力モード(ラインまたはスピーカー)を選択します。 ● ライン: スピーカーまたはイヤークポートを接続する必要があります。 ● スピーカー: デフォルトモード。(製品によって設定がない場合があります。)
出力ボリューム	スライダーを使用して、出力ボリュームを設定します。

4. 保存をクリックします。

2. 音声ファイル

1. 設定 > ビデオと音声 > 音声 > 音声ファイル



2. 音声ファイルパラメータを設定します。

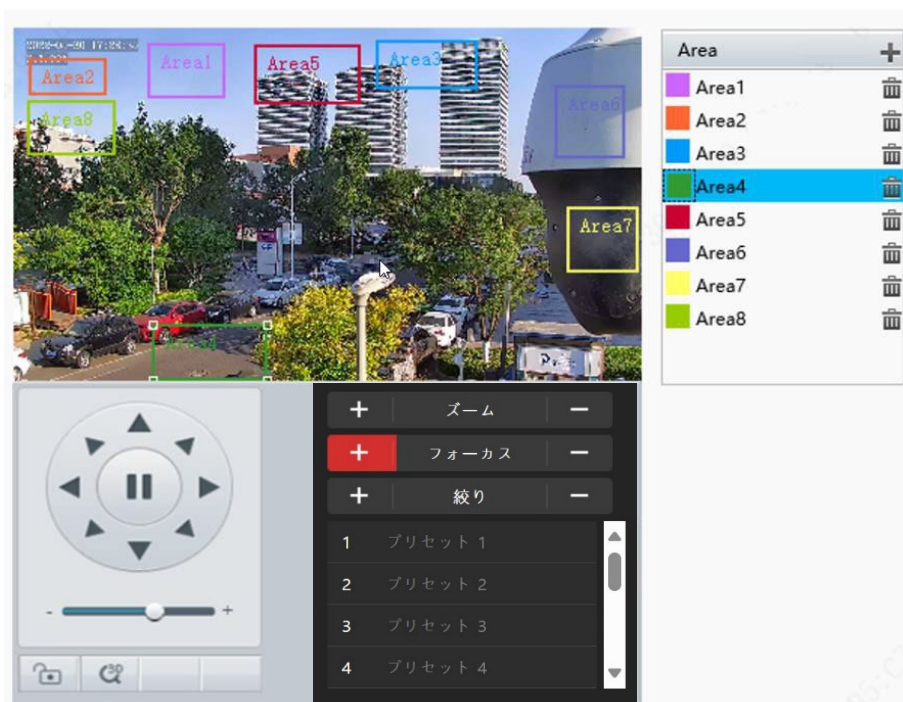
項目	説明
アラーム音量	スライダーをドラッグするか、値を入力してアラーム音量を設定します。
アラーム音声ファイル	ファイルを選択をクリックして、音声フレーズをインポートします。 ● 音声ファイルを再生するには、🔊 をクリックします。 ● 音声コンテンツを編集するには、✏️ をクリックします。 ● 音声を削除するには、🗑️ をクリックします。 参考! ● この機能は特定のモデルのみ使用できます。最大5つの音声ファイルが使用できます。 ● 音声ファイルはデバイスによって異なる場合があります。 ● スマート機能がない一部のモデルはアラームオーディオをサポートし、ユーザのオーディオをサポートします。

3. 保存をクリックします。

5.3.4 ROI

関心領域（ROI）が有効になっていると、システムはビットレートが不十分な場合に、まずROIの画質を確保します。

1. 設定 > ビデオと音声 > ROI



2. ROI領域を設定します。

- (1)  をクリックしROI領域を追加します。領域は最大 8 個まで設定できます。



- (2) 必要に応じてエリアの位置やサイズを調整します。

- 領域の位置とサイズを調整します。
エリアの境界をドラッグして位置、大きさを調整します。
- 領域を設定します。
イメージをクリックしてドラッグして領域を設定します。



参考!

ROIを設定する時、検出ルールによるパン/チルトの動きを防ぐため  をクリックしてロックさせることができます。

ROI設定が終わったら  をクリックしてロックを解除することができます。

5.3.5 メディアストリーム

1. メディアストリーム

カメラで設定されたメディアストリームを表示することができます。また、UDPまたはTCPプロトコルに従って、カメラが指定のIPアドレスとポート番号にコードストリームを送信するように設定することもできます。設定を保存した後でカメラを再起動すると、その設定が有効になります。

1. 設定 > ビデオと音声 > メディアストリーム

ストリームプロ...	プロトコル	宛先IP	宛先ポート	永続的	状態	+
------------	-------	------	-------	-----	----	---

2.  をクリックして、メディアストリームを追加します。

3. メディア画面の設定を完了します。

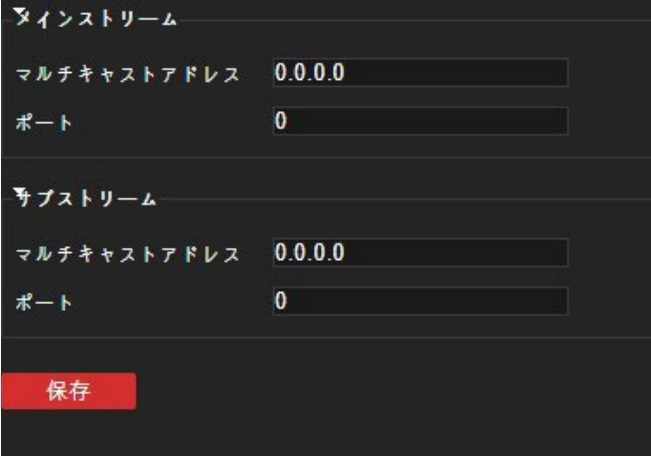
項目	説明
ストリームプロファイル	カメラがメディアコンテンツをサードパーティに送信できるように、ストリームタイプを選択します。
宛先IP	メディアストリームを受信するデバイスのIPアドレスを入力します。
プロトコル	カメラは特定プロトコルでサードパーティにデータを転送します。 デフォルトプロトコルはRTMPです。
永続的	カメラが再起動の後、構成されたメディアストリームを自動的に設定するかどうかを設定します。

4. **確認**をクリックします。

2. RTSPマルチキャストアドレス

RTSPマルチキャストアドレスを設定すると、サードパーティプレイヤーが、RTPプロトコルを介してカメラから、RTSPマルチキャストメディアストリームを要請することができます。

1. 設定 > ビデオと音声 > メディアストリーム > RTSPマルチキャストアドレス



メインストリーム

マルチキャストアドレス 0.0.0.0

ポート 0

サブストリーム

マルチキャストアドレス 0.0.0.0

ポート 0

保存

- マルチキャストアドレス（224.0.0.0～239.255.255.255）とポート番号（0～65535）を設定します。
- 保存**をクリックします。

5.4 PTZ

5.4.1 PTZ基本設定

設定 > PTZ > 基本設定

1. メモリの電源をオフ

メモリの電源をオフが有効されている場合、システムは電力故障に備えてPTZとレンズの最後の位置を記録します。

この機能のデフォルト値は有効になっています。

メモリの電源をオフ ☒ ON ☐ OFF

2. タイムアウト後にPTZコントロールを停止

タイムアウト後にPTZコントロールを停止しますを有効にしてタイムアウト時間を設定するとカメラは設定されたタイムアウト時間に到達したら回転が止まります。

タイムアウト後にPTZコン... ☒ ON ☐ OFF
PTZコントロールタイムア... 10

3. PTZスピード

プリセット間の速度レベル
手動操作の速度レベル

- プリセット間の速度レベル：複数のプリセットの間のカメラの回転速度を設定します。
- 手動操作の速度レベル：PTZを手動で制御するために必要な速度レベルを設定します。



参考!

- 手動操作の速度レベルが高いほどライブビューページのPTZスピードが速くなります。
- 手動操作の速度レベルがライブビューのPTZスピードの両方が最大値に設定されている場合、PTZ速度は上限に達します。

4. PTZ調整

調整
☐ 自動調整を有効 実行時間 02:30:00

- 手動で調整する: **調整**をクリックすると、すぐに編集が開始されます。

- 自動で調整する: **自動調整を有効**を選択して実行時間を設定します。

カメラは設定された時間に自動的にPTZ調整を実行します。

5.4.2 ホームポジション(Auto Guard)

PTZカメラは、設定された時間内で操作がない時、設定されたモードを自動的に動作できます。



参考!

使用する前プリセット又は巡回ルートを追加してください。

1. 設定 > PTZ > ホームポジション (Auto Guard)

2. ホームポジション(Auto Guard)を有効にして設定を完了します。

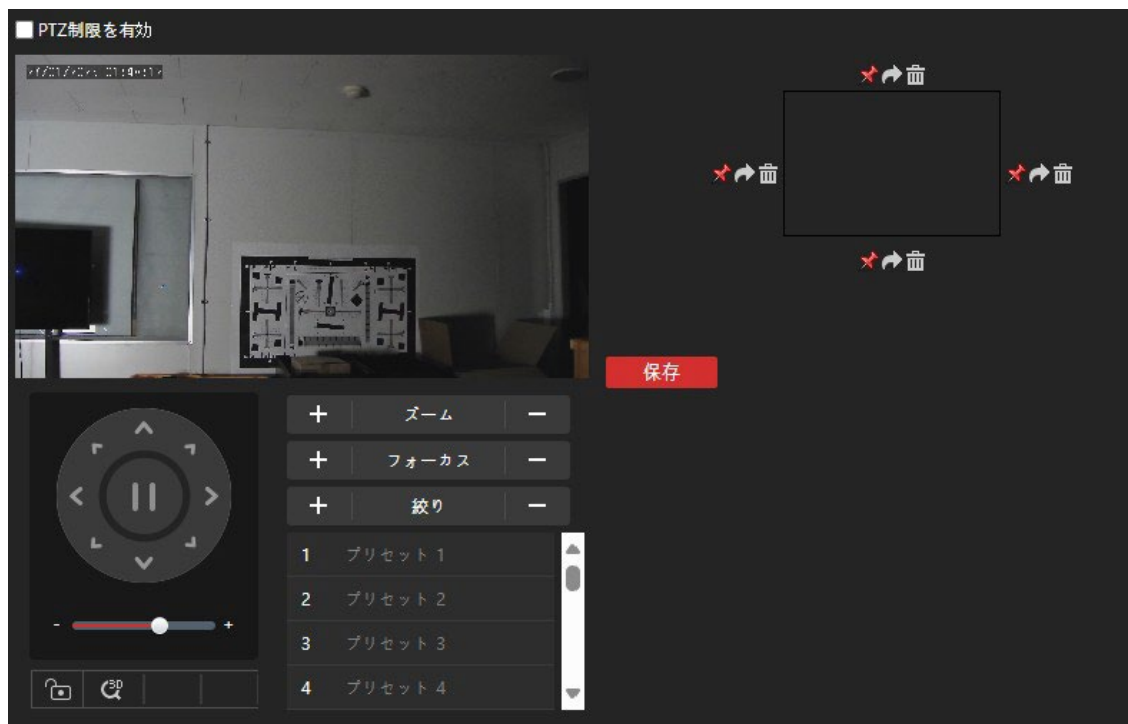
項目	説明
モード	プリセット と 巡回 を含むホームポジションモードを選択します。
ID	プリセットまたは巡回IDを選択します。
時間(秒)	カメラが自動でホームポジションへ戻るように、時間を設定します。

3. **保存**をクリックします。

5.4.3 パン/チルト限定

パン/チルトの動作範囲制限で不要なシーンを除外できます。

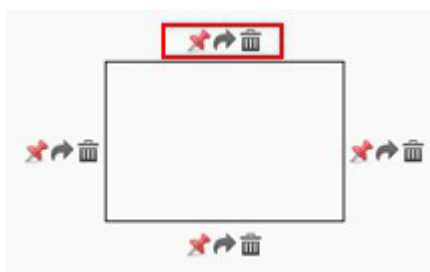
1. 設定 > PTZ > 限定



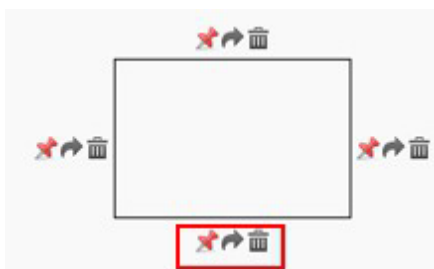
2. **PTZ制限を有効**を有効にします。

3. パンとチルトの値を設定します。

- (1)  を使ってカメラをチルト上限の位置まで移動します。
- (2) 長方形の上を  クリックしてこの位置をチルトの上限に設定します。



- (1)  を使ってカメラをチルト下限の位置まで移動します。
- (2) 長方形の上を  クリックしてこの位置をチルトの下限に設定します。



項目	説明
	カメラを最大値まで回転させます。
	最大値を削除します。

4. **保存**をクリックします。

5.4.4 巡回

設定 > PTZ > 巡回



- スナップショットプリセット

カメラはプリセットのスナップショットを撮り、FTPにアップロードします。



参考!

使用するにはまずFTPとスナップショットの設定を行う必要があります。

- 巡回の再開

巡回が中断された場合、カメラは指定された時間が経過すると自動的にパトロールを再開できます。

5.4.5 位置較正

1. 北向きキャリブレーション

北向きキャリブレーションをします。

1. 設定 > PTZ > 位置校正



2. モードを選択してカメラを北向きにキャリブレーションします。

項目	説明
手動	- 手動で北向きを設定します。 - キャリブレーション後北へ進むをクリックしてカメラをキャリブレーションされた北向きに回転することができます。

2. ホームポジション（カメラの定位置）

パンとチルトの動きの初期位置でカメラのホームポジションを設定します。

1. 設定 > PTZ > 位置校正



2. カメラを希望の位置に移動します。

3. 方向づけをクリックして現在の位置をホーム位置で設定します。

項目	説明
呼び出し	カメラをホームポジションに移動します。
削除	ホームポジションを削除します。

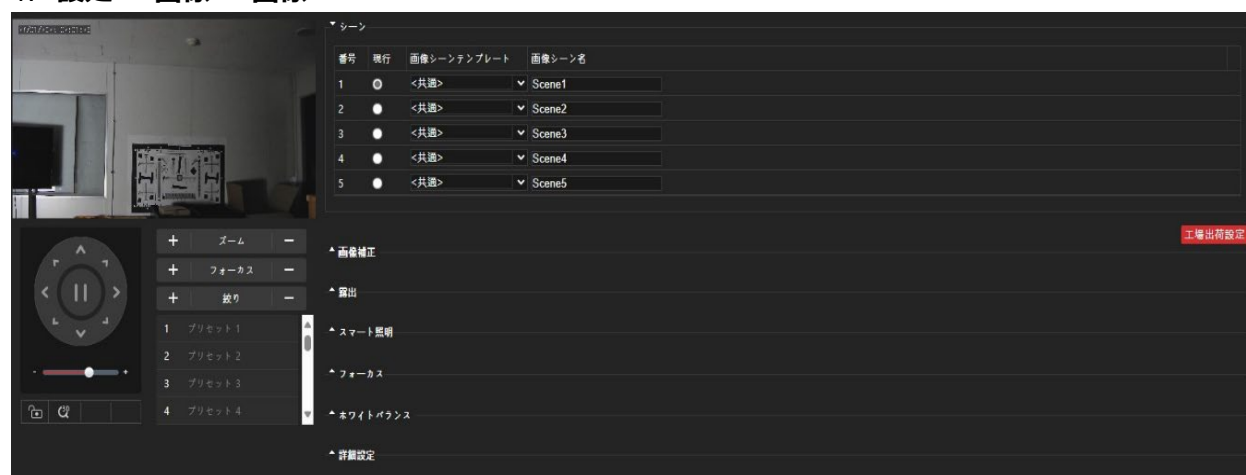
5.5 画像

5.5.1 画像

1. シーン

シーンはユーザーが実際の使用時に簡単に選択できるように設定・されたイメージパラメータです。

1. 設定 > 画像 > 画像



2. シーンをクリックします。



3. パラメータを設定します。

項目	説明
現行	現在使用中のシーンを表示します。 参考! シーンを適用するには、 現行 欄をクリックします。 シーンが現在のシーンとして選択され、そのイメージパラメータが自動的に適用されます。
画像シーンテンプレート	カメラは実際のシーンに基づいて選択できるいくつかのシーンを提供します。シーンを選択すると、イメージ設定が自動的に適用されます。(必要に応じてイメージ設定を微調整することができます) ● 共通: 屋外のシーンにおすすめです。 ● 屋内: 屋内のシーンにおすすめです。 ● ハイライト補正: 道路や公園などのナンバープレートをキャプチャするためです。 ● WDR: コントラストの高い状況に最適です。 ● スターライト: 低照度の環境用。 ● 顔: 複雑なシーンで移動する顔をキャプチャします。 ● 侵入防止: 境界保護シーンに適用されます。 ● カスタム: シーンをカスタマイズします。
画像シーン名	シーンテンプレートに対応するシーン名を選択します。シーン名はイメージシーンの転換に使用されます。

2. 画像補正

1. 画像ページで画像補正をクリックします。



2. イメージ向上パラメータを設定します。

項目	説明	
輝度	画像の明るさまたは暗さ。   暗い 明るい	
彩度	画像内の色の強度または鮮やかさ。   低彩度 高彩度	
コントラスト	画像内の最も明るい色合いと最も暗い色合いの違い。   低 高	
シャープネス	イメージ内のエッジの定義。   低 高	
2Dノイズ削減	画像がぼやける現象を改善するため、ノイズを減せるよう各フレームを個別に分析する。	
3Dノイズ削減	画像のにじみやゴーストを改善するため、連続的なフレームの間の差を分析してノイズを減らします。	

項目	説明
画像回転	イメージの回転。  ノーマル  垂直反転  水平反転  180°  90° 時計方向  90° 反時計方向

デフォルトに戻すには、**工場出荷設定**をクリックします。

3. 露出



参考!

- 露出設定は、デバイスのモデルによって異なる場合があります。
- デフォルト設定はScene Adaptiveです。変更を加える必要がない場合は、デフォルト設定を使用します。

1. 画像ページで、**露出**をクリックします。

The screenshot shows the '露出' (Exposure) settings menu. The settings are as follows:

項目	設定
露出モード	自動
シャッター(秒)	1/100
感度	0
絞り	100
スローシャッター	ON
スローシャッター (最遅設定)	1/12
補正	0
自動露出を復元(分)	15
測光制御	中央重点平均測光
デイ/ナイトモード	自動
デイ/ナイト感度	中
デイ/ナイト切替(秒)	3
WDR	OFF
WDRレベル	5
WDRストライプ抑制	ON
WDRオン感度	5
WDRオフ感度	5

2. 露出パラメータを設定します。

項目	説明
露出モード	露出モードを選びます。 - 自動: カメラはシーンに基づいて最適なシャッタースピードを自動的に設定します。 - カスタム: ユーザーは必要に応じて露出パラメータを設定できます。 - 絞り優先: カメラは絞りを優先して画質を調整します。 - 屋内50Hz: 露出時間を調整して、ノイズを減らします。 注意! - ノイズ: センサーが不均一な光エネルギーを受信して起きる画像の高コントラストです。 - もっと明るい環境でこのモードを使用すると、線形ノイズ抑制によってイメージのノイズが調整できます。 - 屋内60Hz: 露出時間を調整して、ノイズを減らします。 注意! - 手動: シャッター、ゲイン、絞りを手動で設定して、画質を微調整します。 - 低モーションブラー: 最小シャッターを制御して、動いている顔のキャプチャのモーションブラーを減らします。
シャッター(秒)	シャッターはレンズに入る光を制御するために使用されます。シャッタースピードが速いのは、動きの速いシーンに最適です。シャッタースピードを遅くすると、動きの遅いシーンに最適です。 参考! - このパラメータは露出モードが手動、絞り優先、カスタムに設定されている場合に設定できます。 スローシャッターが有効されてない場合、シャッタースピードの逆数をフレームレートよりも大きくする必要があります。
感度	カメラがさまざまな光量条件で標準のビデオ画像を出力できるように、イメージ信号を制御します。 参考! このパラメータは露出モードが手動、カスタムに設定されている場合に設定できます。
スローシャッター	暗い環境の条件で画像の明るさを上げます。 参考! このパラメータは露出モードが絞り優先に設定されておらずImage Stabilizationが無効になっている場合に設定できます。

スローシャッター (最遅設定)	露出するシャッタースピードが最も遅くなるように設定します。
補正	必要に応じて補正を調整して、希望の画像効果を実現します。 参考! このパラメータは露出モードが手動に設定されていない場合、設定できます。
自動露出を復元 (分)	カメラが自動露出モードに戻す連続時間間隔を設定します。
測光制御	デバイスでキャプチャされた画像に対して輝度統計を実行し、露出値を自動的に調整して、最適な明るさで露出の良い画像を出力します。 デフォルトは中央重点平均測光で、実際のシーンに応じて構成できます。 ● 中央重点平均測光: 画像の中心に焦点を合わせて光を測定します。 ● 評価測定: 画像の指定された領域の光を測定します。被写体と背景のコントラストが広いシーンに適しています。 ● スポット測定: 測光よりも小さなスポットからの光を測定し、より正確な光制御を実現します。明るいエリアで使用すると、測光エリアは適切に露出できますが、他のエリアは暗くなります。暗い場所で使用すると、測定した領域が適切に露出し(スポットの明るさは高くできません。)、他の領域が明るくなります。 ● 顔の測定: 顔のシーンでキャプチャされた顔の明るさを制御して、照明が不十分な場所や逆光の条件で画質を調整します。 参考! このパラメータは露出モードが手動に設定されていない場合に設定できます。
デイ/ナイト モード	● 自動: カメラは最適な画像を出力するため周囲の光の状態に応じてデイモードとナイトモードを自動的に切り替えて、最適な画像を生成します。 ● デイモード : カメラは日中の光条件で高品質の画像を出力します。 ● ナイトモード : カメラは暗い場所で高品質の画像を出力します。
デイ/ナイト感度	デイモードとナイトモードの間を移動できる明るさのしきい値。感度値が高いほど、カメラは光の変化に対してより敏感になり、カメラはデイモードとナイトモードの間をより簡単に切り替えることができます。 参考! このパラメータはデイモードとナイトモードが自動に設定されてる場合に設定できます。
デイ/ナイト切替 (秒)	転換条件が満たされると、カメラはデイモードとナイトモードの間の時間の長さを設定します。 参考! このパラメータはデイモードとナイトモードが自動に設定されてる場合に設定できます。

項目	説明
WDR	- ON：高コントラスト条件で鮮明な画像を得るようにします。 WDRレベルを手動で調整する必要がある場合があります。 - 自動：一般的なWDRシーンではカメラが自動にWDRを有効にします。 他のシーンでは、カメラは元のシーンを表示します。 参考! - 一般WDRシーン：高コントラストの状況、逆光、ハイライト正面 - このパラメータは露出モードが自動、カスタム、絞り優先、屋内50Hz又は屋内60Hzで設定されている場合設定できます。
WDRレベル	WDRレベルを調整します。 参考! シーンの明るい部分と暗い部分のコントラストが高い場合は、レベル7以上をお勧めします。 コントラストの低いシーンでは、WDRを使用しないか、レベル1～6を使用することをお勧めします。
WDR オン、オフ感度	WDRが自動に設定されている場合、パラメータを調整してWDR感度を変更します。
WDRストライプ 抑制	WDRモードでライトが点滅することで発生する画像のノイズを抑制します。 カメラは自動的にシャッターと周波数を調整して、ノイズを最小限に抑えます。

デフォルトに戻すには、**工場出荷設定**をクリックします。

4. スマート照明

1. 画像ページで**スマート照明**をクリックします。



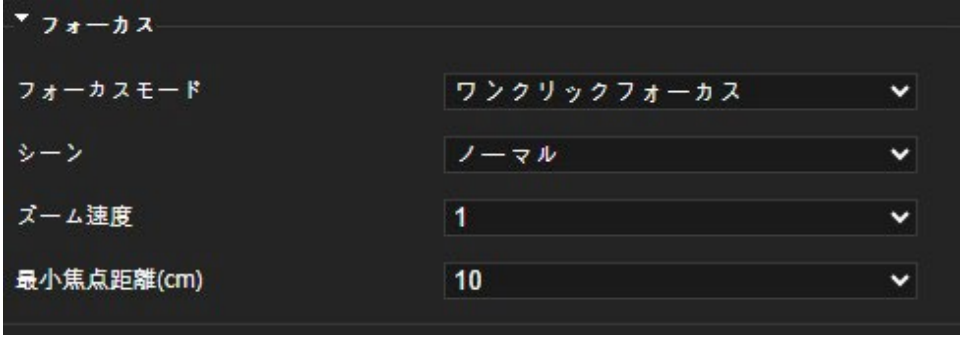
2. **スマート照明**を有効にします。
3. パラメータを設定します。

項目	説明
イルミネーションモード	● 赤外線：カメラは赤外線照度を使用します。 ● 白色光：カメラは白色光照明を使用します。 ● ウォームライト：カメラはウォームライト照明を使用します。 ● レーザー：カメラはレーザー照明を使用します。 参考! カメラによってサポートする照明が異なります。
コントロールモード	● プリセット-道路用：このモードは強力な照度を提供し、道路などの幅広いシーンを監視する場合に推奨されます。 ● プリセット-公園用：このモードは均一な照明を提供し、障害物のある公園などのシーンの狭い領域を監視する場合に推奨されます。 ● カスタムレベル：このモードでは、照明の強度を手動で制御できます。
照明レベル	照明の強さを設定します。値が大きいほど、強さが高くなります。0はオフです。 ● 近距離 IR レベル：近距離フォーカスシーン ● 遠距離 IR レベル：遠距離フォーカスシーン 参考! このパラメータはコントロールモードがカスタムレベルに設定されている場合、設定できます。

デフォルトに戻すには、**工場出荷設定**をクリックします。

5. フォーカス

1. 設定の画像ページで**フォーカス**をクリックします。



▼ フォーカス

フォーカスモード	ワンクリックフォーカス
シーン	ノーマル
ズーム速度	1
最小焦点距離(cm)	10

2. フォーカスパラメータを設定します。

項目	説明
フォーカスモード	- オートフォーカス: 現在の光の状態に基づくオートフォーカス制御。 - マニュアルフォーカス: マニュアルフォーカス制御。 - ワンクリックフォーカス: 回転、ズーム、プリセット動作時にオートフォーカスします。 - ワンクリックフォーカス(IR): 暗いシーンにおすすめです。 - ワンクリックフォーカス(ロック): ロードハイライトシーンに推奨されます。
シーン	- ノーマル: 道路、公園などのシーン。 - 遠距離: 遠距離のシーン。 - 屋内: 屋内のシーン。
ズーム速度	1: 低速ズーム。一般シーンにおすすめです。 2: 高速ズーム。
最小焦点距離(cm)	最短フォーカス距離を選びます。

3. デフォルトに戻すには、**工場出荷設定**をクリックします。

6. ホワイトバランス

ホワイトバランスは、さまざまな色温度で画像から不自然な色を取り除き、

最適な色の再現を実現するために使用されます。

1. 設定の画像ページで**ホワイトバランス**をクリックします。



▼ ホワイトバランス

ホワイトバランス	オート
赤オフセット	15
青オフセット	15

2. ホワイトバランスのパラメータを設定します。

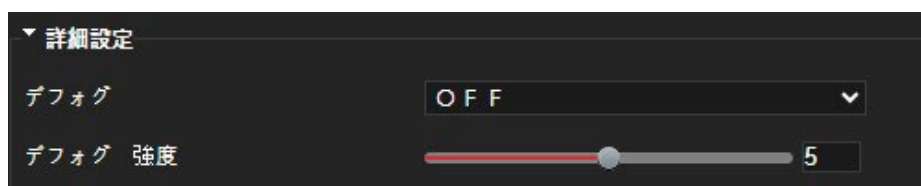
項目	説明
ホワイトバランス	画像の赤と青の色を調整して、非現実的な色を取り除きます。 - オート/自動2: 光量の条件に応じて赤と青の色を自動的に調整します。オートモードで色かぶりがある場合は、自動2モードをお試しします。 - 屋外: 色温度が様々な屋外のシーンにおすすめです。 - 微調整: 赤と青のオフセットを手動で調整します。 - ナトリウムランプ: ナトリウム光源からの最適な色再現のために、赤と青を自動的に調整します。 - 保護: 現在の色温度を維持します。
赤オフセット、 青オフセット	赤/青のオフセットを設定します。 参考! このパラメータは、 ホワイトバランス が 微調整 に設定されている場合に設定できます。

デフォルトに戻すには**工場出荷設定**をクリックします。

7. 詳細設定

デフォグはきり、曇りまたはその他のぼやけたシーンでの画像の視認性を向上させるために使用されます。

1. 設定の画像ページで**詳細設定**をクリックします。



参考!

この機能はWDRが無効になってる場合、設定できます。

2. デフォグパラメータを設定します。

項目	説明
デフォグ	自動 , ON 及び OFF 含め曇り除去モードを選択します。 自動 モードでは、カメラは画像をより鮮明にするため自動的に調整します。

デフォグ強度	曇り除去レベルを調整します。 補正レベルが高いほど、画像は鮮明になります。 参考! デフォグ強度機能は特定のモデルのみ使用できます。 デフォグ強度機能を有効にするにはONを選択し曇り除去レベルを6以上に設定、または自動を選択します。霧がひどい時デフォグ強度が自動に有効になりイメージがカラーから白黒に切り替わります。
--------	--

デフォルトに戻すには、**工場出荷設定**をクリックします。

8. 熱波低減

天候の気温差による熱波を検出し、画像の鮮明さを向上させるための補正を行います。



参考!

- この機能は、特定のデバイスモデルでは利用できない場合があります。
- 熱波軽減機能付きの2チャンネルカメラの場合、チャンネル2カメラで熱波軽減をサポートします。



9. 画像シーンスイッチ

カメラが設定された時間枠またはそれに接続されているプリセットに従って画像シーンを自動的にスナップできるように、画像シーンを設定します。

1. 設定 > 画像 > 画像シーンスイッチ

☐ 自動スイッチを有効

スイッチモード 時間スイッチ

番号	自動切替	スケジュール	画像シーン名
1	デフォルトシーン		1<Scene1>
2	☐	L ~ R	2<Scene2>
3	☐	L ~ R	3<Scene3>
4	☐	L ~ R	4<Scene4>
5	☐	L ~ R	5<Scene5>

保存

2. スイッチモードを選択します。

- 時間スイッチ: 設定したタイムフレームで指定したシーンに移動します。
 - プリセットスイッチ: 指定したプリセットの指定した時間に、指定したシーンに移動します。
3. スイッチモードパラメータを設定します。

- 自動スイッチ

項目	説明																												
自動スイッチ	自動切り替えが完了し、条件が満たされるとシステムは自動的にシーンを選択します。 リストには基本的なシーンが含まれています。																												
スケジュール	現在時間がリストされた期間内にはない場合は、デフォルトのシーン(番号1)が適用されます。最大5つの期間を設定することができます。期間は重ならないように設定してください。期間を設定するには  をクリックします。 <table><thead><tr><th>番号</th><th>自動切替</th><th>スケジュール</th><th>画像シーン名</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>デフォルトシーン</td><td></td><td>1<Scene1> ▼</td></tr><tr><td>2</td><td>☐</td><td> ~ </td><td>2<Scene2> ▼</td></tr><tr><td>3</td><td>☐</td><td> ~ </td><td>3<Scene3> ▼</td></tr><tr><td>4</td><td>☐</td><td> ~ </td><td>4<Scene4> ▼</td></tr><tr><td>5</td><td>☐</td><td> ~ </td><td>5<Scene5> ▼</td></tr></tbody></table>	番号	自動切替	スケジュール	画像シーン名	1	デフォルトシーン		1<Scene1> ▼	2	☐	 ~ 	2<Scene2> ▼	3	☐	 ~ 	3<Scene3> ▼	4	☐	 ~ 	4<Scene4> ▼	5	☐	 ~ 	5<Scene5> ▼				
番号	自動切替	スケジュール	画像シーン名																										
1	デフォルトシーン		1<Scene1> ▼																										
2	☐	 ~ 	2<Scene2> ▼																										
3	☐	 ~ 	3<Scene3> ▼																										
4	☐	 ~ 	4<Scene4> ▼																										
5	☐	 ~ 	5<Scene5> ▼																										
画像シーン名	各期間のシーンを選択します。 <table><thead><tr><th>番号</th><th>自動切替</th><th>スケジュール</th><th>画像シーン名</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>デフォルトシーン</td><td></td><td>1<Scene1> ▼</td></tr><tr><td>2</td><td>☐</td><td> ~ </td><td>1<Scene1></td></tr><tr><td>3</td><td>☐</td><td> ~ </td><td>2<Scene2></td></tr><tr><td>4</td><td>☐</td><td> ~ </td><td>3<Scene3></td></tr><tr><td>5</td><td>☐</td><td> ~ </td><td>4<Scene4></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>5<Scene5></td></tr></tbody></table>	番号	自動切替	スケジュール	画像シーン名	1	デフォルトシーン		1<Scene1> ▼	2	☐	 ~ 	1<Scene1>	3	☐	 ~ 	2<Scene2>	4	☐	 ~ 	3<Scene3>	5	☐	 ~ 	4<Scene4>				5<Scene5>
番号	自動切替	スケジュール	画像シーン名																										
1	デフォルトシーン		1<Scene1> ▼																										
2	☐	 ~ 	1<Scene1>																										
3	☐	 ~ 	2<Scene2>																										
4	☐	 ~ 	3<Scene3>																										
5	☐	 ~ 	4<Scene4>																										
			5<Scene5>																										

- プリセットスイッチ
- プリセットを選択します。 最大4つの位置を設定し、他のプリセットにリンクすることができます。
- (事前に構成する必要がある)それらの位置に4つのスケジュールの構成ができます。

☒ 自動スイッチを有効

スイッチモード プリセットスイッチ ▼

リングプリセット 位置1 ▼ [なし] ▼

番号	自動切替	スケジュール	画像シーン名
1	デフォルトシーン		1<Scene1> ▼
2	☐	~	2<Scene2> ▼
3	☐	~	3<Scene3> ▼
4	☐	~	4<Scene4> ▼
5	☐	~	5<Scene5> ▼

保存

4. (オプション)自動スイッチを有効を選択します。

- 時間スイッチ

- カメラは開始期間にリンクされた画像シーンに切り替わります。
- カメラは期間が終了する時デフォルトシーンに切り替わります。
また、次の期間が開始する前リンクされたシーンに切り替わります。
- **自動**が有効になるとカメラは画像シーンを一気に切り替えます。

- プリセットスイッチ

- リンクされたプリセットを呼び出すと、カメラがシーンを切り替えます。
- プリセットを呼び出すと、カメラは現在の時間を確認します。

現在の時間がリスト内にある場合、カメラはその期間に対応するシーンに切り替わります。

その期間にシーンが設定されていない場合、カメラはデフォルトのシーンに切り替わります。

現在の時間がリストの期間内にない場合、カメラはデフォルトシーンに切り替わります。

5. **保存**をクリックします。

10. エンジニアリングパラメータ

レンズが回転している時は、カメラのピントが合わず、画像が鮮明でない場合があります。

この場合、リセットして焦点を合わせ直すことができます。

1. 設定 > 画像 > エンジニアリングパラメータ

2. レンズを再設定します。

- 手動で再設定するには**リセット**をクリックします。
- 自動で再設定するには、**自動初期化を有効**を選択して設定します。



3. 保存をクリックします。

5.5.2 OSD

オンスクリーンディスプレイ(OSD)はビデオイメージに表示されるテキストです。(カメラ名、日付、時刻など)



参考!

- この機能は、デバイスのモデルによって異なる場合があります。

ビデオに表示される OSDを設定します。

1. 設定 > 画像 > OSD



2. OSDツールバーでのパラメータの設定



参考!

デバイスのモデルによってOSD設定は異なる場合があります。

項目	説明
有効	有効のチェックボックスをオンにして、ライブビューで対応するOSDコンテンツをオンにします。 参考! OSDは最大10個まで設定できます。
オーバーレイ OSD	オーバーレイするOSDコンテンツを設定します。「OSDコンテンツ」をポイントし、 をクリックして、リストからOSDコンテンツを選択またはカスタマイズします。 参考! OSDコンテンツは、有効が選択されている場合にのみ適用されます。
X軸 / Y軸	X,Y座標を入力してOSDの正確な位置を指定します。 参考! OSDを位置にドラッグすることもできます。プレビューウィンドウのOSDボックスをクリックし、カーソルの形が変わったらドラッグします。

3. OSDディスプレイのスタイルを設定します。

項目	説明
効果	ディスプレイ効果を選択します。: 背景付き、ノーマル
フォントサイズ	フォントサイズを選択します。: 大、中、小
フォント色	フォントの色を選択するには  をクリックします。
反転OSD	有効になった場合、OSDコンテンツの色はライブビューの色と反対になります。
最小マージン	OSD領域とイメージのエッジとの間の距離を選択します。 - なし: 余白はありません。 - 半角: 1文字余白。 - 全角: 2文字余白。
日付形式	dd/MM/yyyy, MM/dd/yyyy などの日付形式を選択します。
時刻形式	時刻の形式を選択します。: HH:mm:ss, hh:mm:ss tt

5.5.3 プライバシーマスク

プライバシーマスクはATMのキーボードなど、プライバシーのために画像の特定の領域を隠すために使用されます。



参考!

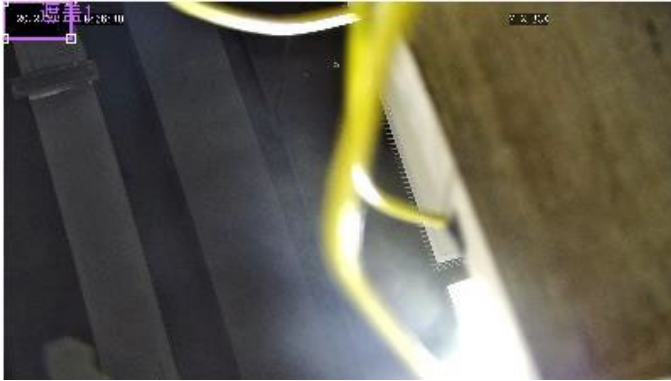
- この機能は、デバイスのモデルによって異なる場合があります。

1. 設定 > 画像 > プライバシーマスク



2. プライバシーマスクを追加します。

(1) **追加**をクリックします。プライバシーマスクは基本的に長方形です。



(2) マスクの位置、大きさを調整又は描きます。

➤ マスクの位置とサイズを調整します。

マスクの境界線をクリックし、希望の位置にドラッグします。

マスクのハンドルをクリックしドラッグして大きさを調整します。

➤ マスクを描きます。

多角形：画像をクリックしてドラッグし、ラインを描きます。必要に応じて繰り返して、囲む形状を形成するた

めにさらに線を描きます。サインは最大4個まで設定できます。

長方形：画像をクリックしてドラッグし、長方形を描画します。

3. プライバシーマスクを設定します。

項目	説明
最大ズーム (3D-mask camera)	最大ズームを設定して、プライバシーマスクを表示するか非表示にするかを決定します。
最大に設定. (3D-mask camera)	クリックすると、現在のレンズのズーム率が最大ズーム率に設定されます。
プリセット (3D-mask camera)	クリックすると、カメラがマスク領域に回転します。一般的なマスク領域はライブビューの中央に位置します。

5.6 イベント

映像内に動きや妨害行為を検知したときにアラームを出力したり、連動する動作を設定することができます。

5.6.1 標準アラーム

1. 動体検知



参考!

-  アイコンは動体検知アラームが発生する時、右上の画面に表示されます。
- 機能はカメラによって異なります。

1. 設定 > イベント > 標準アラーム



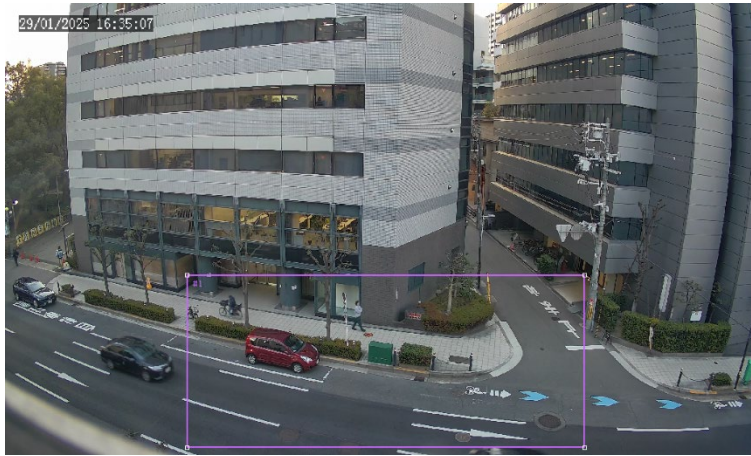
- 基本モードとUltraモードで検知モードを選択します。

基本モード

カメラは画像に指定された領域から検知ルールが発生した場合、アラームを鳴らします。

- ルールモード：範囲

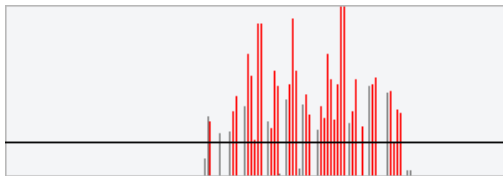
- (1) 検知領域を追加するには  をクリックします。画像に長方形が表示されます。
検知領域は最大4個まで設定可能です。



(2) 長方形の検知領域の位置、大きさ、模様を調整又は描きます。

- 領域の境界線をドラッグして位置を調整します。
- 領域のハンドルをドラッグして大きさを調整します。
- 希望する領域でクリックしてドラッグしながら新しい領域を描きます。

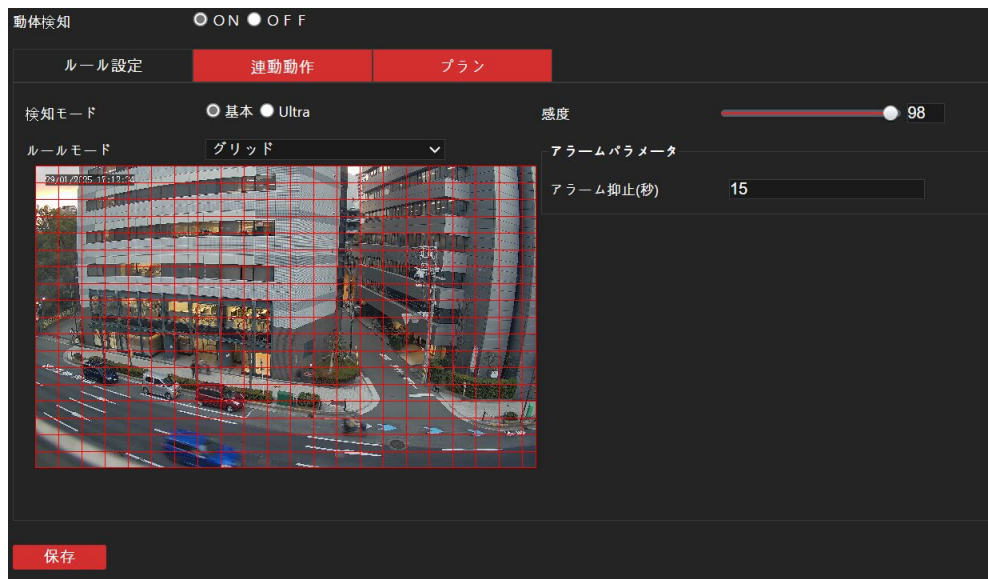
(3) 検知ルールを設定します。

項目	説明
感度	感度の数値が高いほど(スライダが右にあるほど)、わずかな動きでも検知しやすくなります。検知範囲全体のサイズに対するオブジェクトのサイズの最小比率を指定します。
対象のサイズ	検知範囲全体のサイズに対するオブジェクトのサイズの最小比率を指定します。小さな動きを検出する場合は、検知範囲を小さめにして、「対象のサイズ」をなるべく「小」に近づける必要があります。 - 発生した動きがリアルタイムでグラフに表示されます。動体検知アラームが発生すると、赤い線が表示されます。線が長いほど動きの程度が大きいことを表します。また、線の密度が濃いほど動きの頻度が高いことを表します。  - 対象のサイズ設定：この線を越えて動きを感知すると、アラームが発生します。

(4) アラーム抑止(秒)：一度目のアラームが検知された後、同じアラームが検知されても無視する時間を設定します。

(5) アラーム解除(秒) : 設定した時間内に同じアラームが発生しなかった場合、アラームはクリアされ、同じアラームが再度発生ようになります。

- ルールモード：グリッド



(1) グリッド検知領域を設定します。

(2) 検知領域を調整します。

- グリッド領域をクリックまたはドラッグしてグリッドを描いたり、消します。

(3) スライダを動かして検知感度を調整します。

感度の数値が高いほど(スライダが右にあるほど)、わずかな動きでも検知しやすくなります。

(4) アラーム抑止(秒) : 一度目のアラームが検知された後、同じアラームが検知されても無視する時間を設定します。

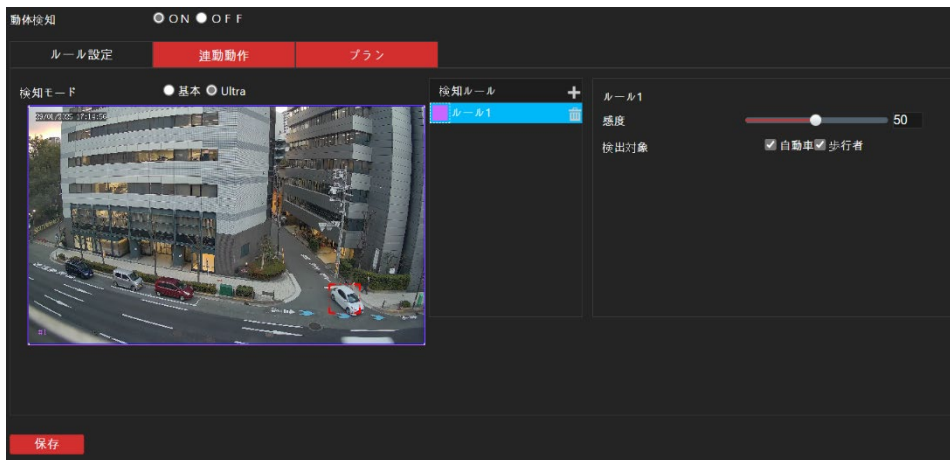
(5) アラーム解除(秒) : 設定した時間内に同じアラームが発生しなかった場合、アラームはクリアされ、同じアラームが再度発生ようになります。

3. 連動動作とプランを設定します。

4. **保存**をクリックします。

Ultraモード

カメラは指定された検知領域から自動車、歩行者の動きを検知してスナップショットを撮ったりアラームを鳴らします。



1. 検知ルールを設定します。

(1) 検知領域を追加するには  をクリックします。画像に長方形が表示されます。
検知領域は最大4個まで設定可能です。

(2) 長方形の検知領域の位置、大きさ、模様を調整又は描きます。

- 領域の境界線をドラッグして位置を調整します。
- 領域のハンドルをドラッグして大きさを調整します。
- 希望する領域でクリックしてドラッグしながら新しい領域を描きます。

(3) スライダー動かして検知感度を調整します。

感度の数値が高いほど(スライダーが右にあるほど)、わずかな動きでも検知しやすくなります。

(4) 検知物体を選択します。

2. 連動動作とプランを設定します。

3. 保存をクリックします。

2. タンパリングアラーム

カメラが覆われたときにアラームを出力します。

1. 設定 > イベント > 標準アラーム > タンパリングアラーム



2. タンパリングアラームを選択します。

3. 検知ルールを設定します。

(1) 感度：スライダを動かして検知感度を調整します。

感度の数値が高いほど(スライダが右にあるほど)、検知しやすくなります。

(2) 持続期間(秒)：タンパリングが何秒以上続いた場合にアラームが発生するかを設定します。

4. 連動動作とプランを設定します。

5. 保存をクリックします。

3. 音声検知

音量の上昇または低下が設定限度を超えるか、または入力音量がしきい値に達したときに、アラームを出力させます。

設定前に、音声入力機器がカメラに正しく接続され、音声入力がオンになっていることを確認してください。

- 音声入力モードがLine/Micの場合

1. 設定 > イベント > 標準アラーム > 音声検知

音声検知
ON OFF

ルール設定

連動動作

プラン

400
200
0

検知タイプ
突然の上昇
相違
100

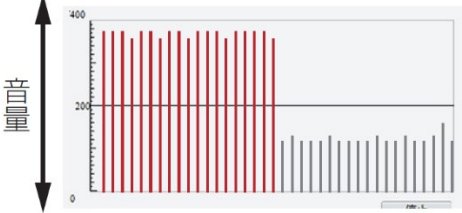
停止

保存

2. 音声検知をONにします。

3. 音声検知ルールを設定します。

項目	説明
検知タイプ	- 突然の上昇：音量の上昇量が設定値を超えると、アラームが発生します。 - 音圧下降：音量の低下量が設定値を超えると、アラームが発生します。 - 音圧変化：音量の増減量が設定値を超えると、アラームが発生します。 - しきい値：音量がしきい値を超えると、アラームが発生します。
相違	- 相違：「突然の上昇、音圧下降、音圧変化、しきい値」が設定されているときに、設定した値以上の音量差があるとアラームが発生します。 - しきい値：「検知タイプ」に「しきい値」が設定されているときに、音量が設定したしきい値を超えるとアラームが発生します。

項目	説明
音声検知結果	検知した音量がリアルタイムでグラフに表示されます。音声検知アラームが発生すると、赤い線で表示されます。線が長いほど音量が大きいことを表します。 (例) 

4. 連動動作とプランを設定します。

5. **保存**をクリックします。

4. アラーム入力（一部モデル）

サードパーティ製のデバイスからアラーム情報を入力できます。この機能を使用するには、最初のアラーム入力に関する情報を設定する必要があります。

1. 設定 > イベント > 標準アラーム > アラーム入力

アラーム選択

アラーム入力1

ルール設定

連動動作

プラン

アラーム名

A1

アラームタイプ

常時オフ

アラーム入力

☒ ON
☐ OFF

保存

2. リストからアラーム入力を選択します。

3. アラーム入力を設定します。

項目	説明
アラーム名	アラーム名を設定します。
アラームタイプ	アラーム入力デバイスによるアラームタイプを設定します。 - アラーム入力のデバイスが(N.O.)の場合N.C.を選択します。 - アラーム入力のデバイスが(N.C.)の場合N.O.を選択します。
アラーム入力	ON をクリックしてアラーム入力を有効にします。

4. 連動動作とプランを設定します。

5. **保存**をクリックします。

5. アラーム出力（一部モデル）

サードパーティ製のデバイスにアラーム情報を出力します。

1. **設定 > イベント > 標準アラーム > アラーム出力**

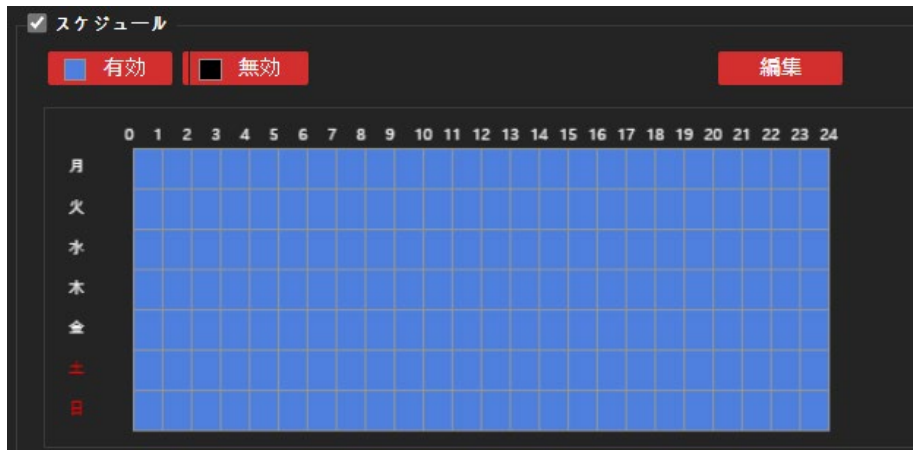
2. リストからアラーム入力を選択します。

3. アラーム出力を設定します。

項目	説明
アラーム名	アラーム名を設定します。
デフォルトステータス	デフォルトステータスを選択します。デフォルトは N.O. です。 - 外部アラームデバイスが(N.O.)の場合N.O.を選択します。 - 外部アラームデバイスが (N.C.)の場合N.C.を選択します。
遅延(秒)	アラーム検知してからアラームを発生させるまでの時間を設定します。

リレイモード	「ラッチ回路」はアラームを検知した後、一定期間アラームを発生させ続けます。 「ワンショット回路」はアラーム検知中のみアラームを発生させます。
--------	--

4. スケジュール出力でスケジュールを選択してカメラがアラーム出力をする時点を設定します。

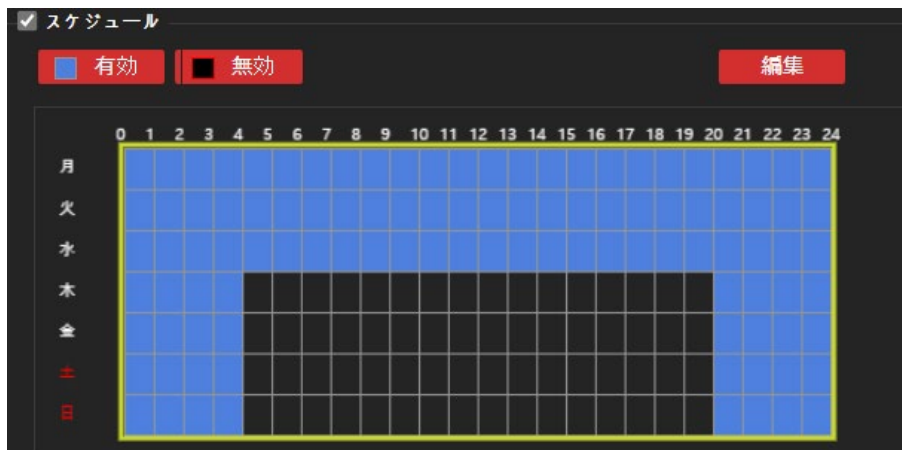


設定方法は2種類あります。

- 時間軸でスケジュールを編集するとき

「有効」または「無効」ボタンを押してから、時間軸の枠内をドラッグしてスケジュールを設定します。

検知が有効な時間帯が青色、無効な時間帯が黒色で表示されます。



- 日時を文字入力してスケジュールを編集するとき

編集を押してスケジュール編集画面を開き、曜日を選んで開始時刻、終了時刻を入力します。

同じ設定内容を他の曜日にも反映したい場合は、コピー先の曜日にチェックを入れ、「**コピー**」を押します。

編集が終わったら「**確認**」を押して前の画面に戻り、画面左右の「**保存**」を押します。

編集

月火水木金土日

番号	開始時刻	終了時刻
1	00:00:00	23:59:59
2		
3		
4		

コピー先

☐ すべて選択

☒ 月

☐ 火

☐ 水

☐ 木

☐ 金

☐ 土

☐ 日

コピー

確認

キャンセル

5.7 ストレージ

設定 > ストレージ > ストレージ

記録媒体

メモ리카ード

フォーマット

☒有効

ストレージ状態: 未装着

総容量 0 GB, 空き容量 0 GB.

容量割り当て

ビデオ (GB)

0

(残りの容量は画像の保存に使用されます)

スナップショット (GB)

0

(残りの容量はスマートスナップショットストレージに使用されます)

スマートスナップショット...

0

映像ストレージ情報

ストレージポリシー

☐ マニュアル & アラーム録画 ☐ スケジュール & アラーム録画 ☐ アラーム録画のみ

録画容量不足の場合

☐ 上書き ☐ 停止

事後録画時間(秒)

60

保存

5.7.1 メモ리카ード



参考!

この機能を使用する時はカメラにメモリーカードが取り付けられていることを確認してください。

1. ストレージでメモ리카ードを選択して有効を選択します。

項目	説明
記録媒体	メモ리카ード及びNASの選択ができます。
フォーマット	ストレージリソースの使用を停止し、 フォーマット をクリックします。フォーマットが完了するとカメラが再起動します。
ストレージ状態	メモ리카ードのステータスが表示されます。 参考! - この機能は特定のカメラでのみ使用できます。 - この機能はTFカードで使用できます。
録画容量不足の場合	- 上書き: メモ리카ードが使い果たされると、新しいデータが古いデータを上書きします。 - 停止: メモリーカードが使い果たされると、カメラは新しいデータの保存を停止します。
事後録画時間(秒)	アラームの終了後にアラームによってトリガーされる録画の時間を設定します。

2. 必要に応じてストレージスペースを割り当てます。

3. 保存した情報を設定します。

- 手動録画、アラーム録画を保存するには

マニュアル&アラーム録画を選択します。デフォルトではメインストリームが保存されます。

ストレージポリシー: マニュアル & アラーム 録画 (選択済み) スケジュール & アラーム 録画 アラーム 録画 のみ

録画容量不足の場合: 上書き (選択済み) 停止

事後録画時間(秒): 60

- スケジュール & アラーム 録画を保存するには

(1) スケジュール & アラーム 録画を選択します。

(2) デフォルトの録画スケジュールは24/7です。スケジュールを変更するにはカレンダー内でスケジュールをドラッグするか編集をクリックします。

- アラーム録画のみ保存するにはアラーム録画のみを選択します。

5.7.2 NAS

ネットワーク接続ストレージ(NAS) サーバーを使用して、カメラのビデオとスナップショットを保存します。

1. 記録媒体を**NAS**に設定します。
2. サーバーアドレスを入力します。
3. NASサーバーからフォルダへのパスを入力します。

記録媒体: NAS (選択済み) フォーマット

サーバーIP: 0.0.0.0

パス: / NASテスト



参考!

パスには文字、数字、ドット、スペース、記号を含めることができます。例: / : , - _ @ =
他の記号が入力された場合NASテストは失敗します。

4. テストが成功したら**保存**をクリックします。

5.7.3 FTP

FTPサーバーに画像、動画をアップロードします。

1. 設定 > ストレージ > FTP

サーバーパラメーター

サーバーIP0.0.0.0

ポート番号21

ユーザー名

パスワード:

確認

画像アップロード

ビデオをアップロード

テスト

UTF 8形式に変換する

写真

録画

保存先:

ファイルパス

ファイル名:

番号	命名要素
1	無効
2	無効
3	無効
4	無効
5	無効
6	無効

メモ:現在のディレクトリに上書きされます

保存

2. サーバーパラメータを設定します。

項目	説明
サーバーIP	FTPサーバーのIPアドレス。
ポート番号	デフォルト値は21です。必要に応じて、他のポートの設定ができます。
ユーザー名	FTPサーバーへのログインに使用するユーザー名。
パスワード	FTPサーバーへのログインに使用するパスワード。
確認	FTPサーバーへの接続をテストします。

画像アップロード	一般スナップショットをアップロードするには画像アップロードを選択します。 ストレージ上書き：最下位レベルのフォルダー内の画像数がしきい値に達すると、サーバーが既存の画像を上書きしながら新しい画像を保存し続けます。たとえば、フォルダのパスが「/IP/date」の場合、レベル2フォルダ date が最下位です。アップロードされるイメージが1,000枚を超えたら新しいイメージが既存イメージを上書きします。 参考! - 上書きを選択する場合ファイル名の命名要素はPhoto No.になります。 - デフォルトの上書き保存しきい値はイメージ1,000枚で最大値は100,000枚です。
ビデオをアップロード	アラームでトリガーされた録画をアップロードする場合に選択します。
UTF8形式に変換する	パスをUTF8形式に変更する場合に選択します。

3. 保存先を構成します。

項目	説明
写真	ファイルパスは最大 6 個まで設定できます。 指定しない場合、デフォルトパスは「/IP/Date/Common」です。
	ファイル名は最大20個まで設定できます。 指定しない場合1, 2, 3, …がファイル名になります。
録画	ファイルパスは最大 6 個まで設定できます。 指定しない場合、デフォルトパスは「/IP/Date/Common」です。
	基本ファイル名は「S+録画開始時間+E+録画終了時間」です。 例：S20220104174903E20220104175002

4. 保存をクリックします。

5.8 セキュリティ

セキュリティ機能はカメラモデルによって異なります。

5.8.1 ユーザー

ユーザーを追加、編集、削除するには **設定 > セキュリティ > ユーザー** に移動します。

追加 編集 削除		
番号	ユーザー名	ユーザータイプ
1	admin	管理者

- ユーザー追加

1. **追加**をクリックします。

一般ユーザー

追加

ユーザー名

ユーザータイプ 一般ユーザー

パスワード

弱 中 強

確認

■ 権限を選択

☒ ライブビュー... ☐ 再生

確認 キャンセル

オペレーター

追加

ユーザー名

ユーザータイプ オペレーター

パスワード

弱 中 強

確認

■ 権限を選択

☐ パラメータ... ☒ ライブビュー... ☒ 再生 ☒ スナップシ... ☒ 双方向音声

☒ PTZコント... ☐ イベントサ... ☒ ログ ☐ メンテナン... ☐ アップグレ...

確認 キャンセル

2. パレメータを設定します。

項目	説明
ユーザー名	希望するユーザー名を設定します。
ユーザータイプ	一般ユーザー または オペレータ を選択します。 参考! - オペレータ（管理者）（最低 1 名）、一般ユーザー、作業者(最大31名)を含め最大32名の使用者の設定ができます。 - オペレータはデバイスの操作やユーザー管理など、システム内のすべての制御を行うことができます。
パスワード	パスワードを入力します。 参考! 新規ユーザーは強力なパスワードが必要です。強力なパスワードは、9~32文字以内の文字、数字、特殊文字の組み合わせで構成する必要があります。
確認	パスワードを再入力します。
権限を選択	ユーザーのタイプが異なれば、権限も異なります。新しいユーザーに割り当てる権限を選択します。 参考! 権限を選択 のボックスを選択したら全権限を選択・解除できます。

3. **確認**をクリックします。

- ユーザー情報を編集します。

1. **ユーザー**をクリックします。

2. **編集**をクリックします。

一般ユーザー

編集

ユーザー名 1

ユーザータイプ 一般ユーザー

管理者パスワード

パスワード: 弱 中 強

確認

☒ 権限を選択

☒ ライブビュー ☐ 再生

確認 キャンセル

管理者

編集

ユーザー名

admin

ユーザータイプ

管理者

古いパスワード

パスワード:

弱中強

確認

メール

権限を選択

パラメータ...

ライブビュー...

再生

スナップシ...

双方向音声

PTZコント...

イベントサ...

ログ

メンテナン...

アップグレ...

確認

キャンセル

3. パラメータを設定します。

項目	説明
管理者パスワード	編集している使用者ではない管理者のパスワード。
パスワード	パスワードを入力します。
確認	パスワードを再入力します。
権限を選択	ユーザーのタイプが異なれば、権限も異なります。新しいユーザーに割り当てる権限を選択します。 参考! 権限を選択のボックスを選択したら全権限を選択・解除できます。

4. 確認をクリックします。



参考!

- 管理者はデバイスのパスワードを変更できます。
新しいパスワードは、現在のパスワードとは異なるものである必要があります。
- 管理者は、新しいユーザーのユーザー名とパスワードを変更できます。ユーザーはログインされた場合自動的にログアウトされるため、新しいユーザー名とパスワードを使用してログインする必要があります。

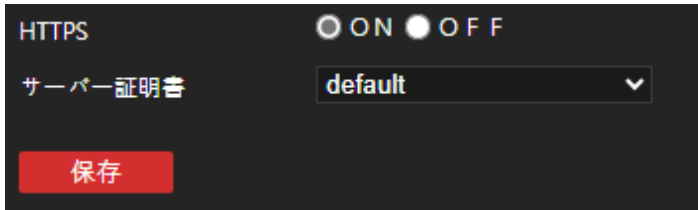
● ユーザー削除

ユーザーをクリックして削除をクリックします。確認をクリックして確定します。

5.8.2 HTTPS

カメラからビデオデータを安全に保存するにはHTTPSを有効にします。

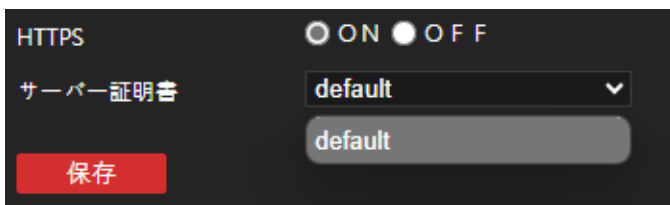
1. 設定 > セキュリティ > ネットワークセキュリティ > HTTPS



参考!

デフォルトHTTPSポートは443です。（他のポートを使用する： **設定 > ネットワーク > ポート**）

2. HTTPSを有効にするには**ON**をクリックします。
3. アカウントにログインします。HTTPSが有効になりましたらログインページが表示されます。
ログインするとセキュリティチャンネルが設定されます。
4. サーバー証明書を選択するには  をクリックします。



- デフォルト証明書使用
5. **保存**をクリックします。

5.8.3 認証

RTSPとHTTPを構成してネットワークサポートを改善します。認証が成功するとビデオ、音声、テキスト、画像などのデータをネットワークで送信できます。

1. 設定 > セキュリティ > ネットワークセキュリティ > 認証

2. 認証モードを選択します。

項目	説明
RTSP認証	認証モードを選択します。デフォルトはDigestです。 ● Basic : 基本認証。ユーザー名とパスワードはBase 64で暗号化されているため保安にリスクがある可能性があります。 ● Digest : Digest認証。デフォルトはMD5です。 ➢ Digest MD5: Digest認証。MD5を使用して一般テキストでネットワークに転送されてない申請者のユーザー名、パスワード、ドメインを保護します。 ➢ Digest SHA256: Digest認証。SHA256を使用してDigest MD5よりもっと保安レベルが高いです。 ➢ Digest MD5/SHA256: MD5またはSHA256アルゴリズムをサポートします。 ● なし: RTSPアドレスを認証せずメッセージを送ります。
Web認証	認証モードを選択します。デフォルトはDigestです。 ● Digest: Digest認証。デフォルトはMD5です。 ➢ Digest MD5: Digest認証。MD5を使用して一般テキストでネットワークに転送されてない申請者のユーザー名、パスワード、ドメインを保護します。 ➢ Digest SHA256: Digest認証。SHA256を使用してDigest MD5よりもっと保安レベルが高いです。 ➢ Digest MD5/SHA256: MD5またはSHA256アルゴリズムをサポートします。 ● なし: Webアドレスを認証せずメッセージを送ります。

3. **保存**をクリックします。

5.8.4 ARP保護

ゲートウェイのIPアドレスとMACアドレスをバインディングしてARP保護を設定します。

1. **設定 > セキュリティ > ネットワークセキュリティ > ARP保護**

2. **ARP保護**を有効にします。
3. ゲートウェイのMACアドレスを入力します。
4. **保存**をクリックします。

5.8.5 IPアドレスフィルタリング

指定したIPアドレスからのみアクセスを許可したり、
指定したIPアドレスのアクセスを拒否するときに設定します。

1. **設定 > セキュリティ > ネットワークセキュリティ > IPアドレスフィルタリング**

IPアドレスフィルタリング ☒ ON ☐ OFF

フィルタリングモード 許可リスト ▼

番号	IPアドレス	+

保存

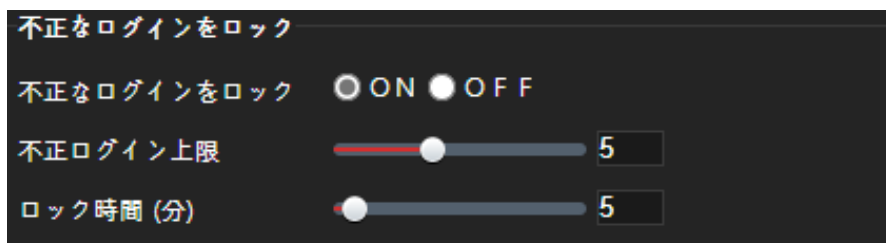
2. **IPアドレスフィルタリング**を有効にします。
3. **許可リスト**または**アクセス拒否**を選択してIPアドレスフィルタリングをします。
許可リストを選択すると指定したIPアドレスのみアクセスを許可します。
アクセス拒否を選択すると指定したIPアドレスのアクセスを拒否します。
4. **+** をクリックしてIPアドレスを入力します。
 - IPアドレスは最大 3 2 個まで登録できます。(重複不可)
 - 各IPアドレスの最初のバイトは1-233のみ指定できます。
 - 4 番目のバイトは 0 にはできません。
5. **保存**をクリックします。

5.8.6 アクセス方式

アクセスするときの設定を行います。

1. 設定 > セキュリティ > ネットワークセキュリティ > アクセス方式

- 不正なログインをロック



参考!

不正なログインをロックが有効になると間違ったパスワードで5回連続してログインに失敗するとアカウントは5分間ロックがかかります。不正なログインをロック機能は無効になるとカメラはパスワードを間違ってもアカウントはロックしません。

項目	説明
不正な ログインをロック	クライアントIPアドレスがリストにない場合、入力されたパスワードが正しくなかったら不正なログインです。 参考! - アカウントがロックされると、ユーザー名、IPアドレスなどの情報がシステムによって記録されます。 - ユーザーは電源を抜いてカメラを再起動することで、アカウントのロックを解除することができます。
不正ログイン 上限	許可される不正なログイン試行の最大数。範囲：2～10。 アカウントが上限に達するとロックされます。
ロック時間 (分)	範囲：1～120

例：ユーザーAは、クライアントのIPアドレス192.168.1.33を介してログインしようとしたが、ロックされます。その後、ユーザーAはロック時間内にログインできなくなりますが、ユーザーBは影響を受けず、同じIPアドレスでログインできるようになります。

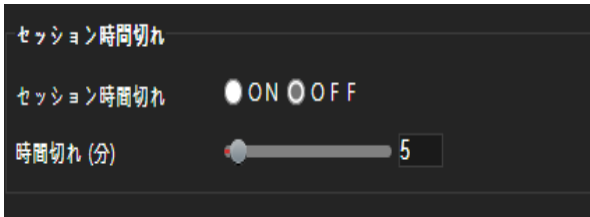
● セッション時間切れ

セッションはクライアントとサーバーの間設定された連結です。セッション時間切れが有効になると、クライアントが設定された時間内に構成を確保、保存できない場合、ユーザーは自動的にログアウトされログインページに移動します。



参考!

管理者のみこの機能を有効、無効にすることができます。



項目	説明
セッション 時間切れ	セッションは次のようにカウントされます。 ● 1つのクライアントIPで1つのウェブブラウザを使用してセッションを設定する場合、1つのセッションがあります。 ● 2つのクライアントIPで2つのウェブブラウザを使用して(各IPで2つのブラウザ)セッションを設定する場合4つのセッションがあります。 参考! 同時に最大36のセッションの設定ができます。
時間切れ (分)	範囲：1~120 参考! タイマーは再起動の後セッションが再設定されたら再開します。

2. **保存**をクリックします。

5.8.7 証明書の管理

証明書の管理ページで証明書の作成、管理、プロパティの確認ができます。

1. 設定 > セキュリティ > ネットワークセキュリティ > 証明書の管理

1. 証明書

1. 自己署名証明書の作成、インポートをします。

(1) 自己署名証明書の作成をクリックします。

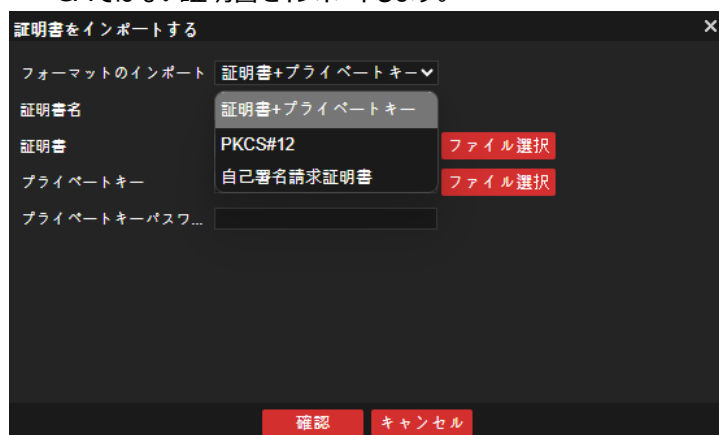
(2) 設定を完了します。

項目	説明
証明書名	必要に応じて名前を設定します。
パブリックキー	パブリックキーの長さを選択します。: 2048又は1024 デフォルト: 2048
国	2文字の国コードを入力します。

ドメイン名/IP	デバイスのIPアドレスまたはドメイン名を入力します。
有効期間（日）	証明書の有効期限を入力します。
州	州を入力します。
市	都市を入力します。
組織	組織名を入力します。
組織ユニット	組織ユニット名を入力します。
Eメール	有効なEメールを入力します。

(3) **確認**をクリックします。

- CAではない証明書をインポートします。



(1) **証明書をインポートする**をクリックします。

(2) 設定を完了します。

項目	説明
フォーマットのインポート	証明書+プライベートキー、PKCS#12、自己署名証明書が選択できます。
証明書名	証明書名を入力します。
証明書	ファイルを選択 をクリックして証明書を探します。
プライベートキー	ファイルを選択 をクリックしてプライベートキーを探します。
プライベートキーパスワード	プライベートキーパスワードを入力します。

(3) **確認**をクリックします。

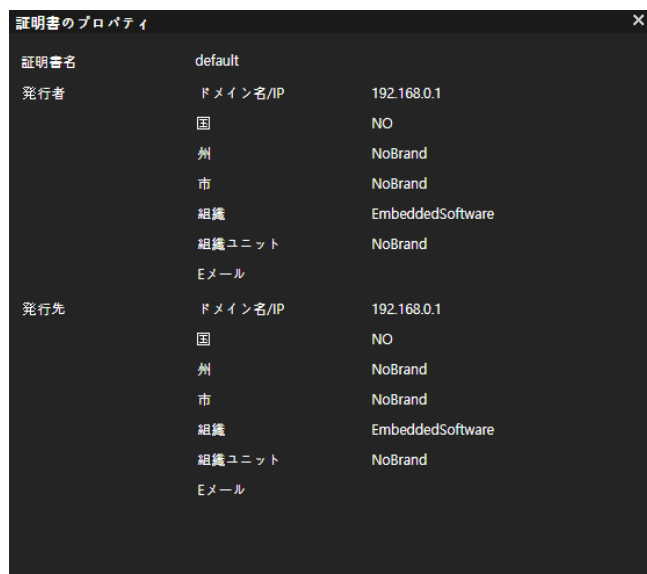
- 証明書をエクスポートします。

証明書をエクスポートするをクリックして証明書をパソコンに保存します。

- 証明書を削除します。

証明書を選択して削除します。使用中の証明書は削除できません。

- 証明書のプロパティを表示します。



2. CA証明書

CA証明書は信頼できる認証機関 (CA) から発行された証明書でより安全です。

1. **証明書をインポートする**をクリックします。
2. 証明書名を入力して証明書を選択します。



3. **確認**をクリックします。

- 証明書を削除します。

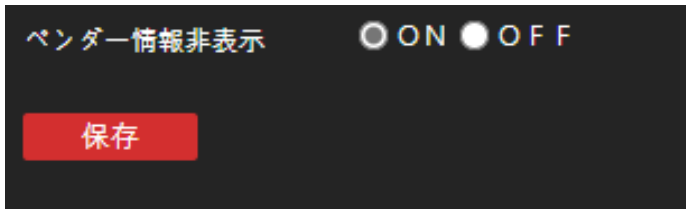
証明書を選択して削除します。使用中の証明書は削除できません。

- 証明書のプロパティを表示します。

5.8.8 登録情報

カメラのベンダーを非表示にするように設定できます。

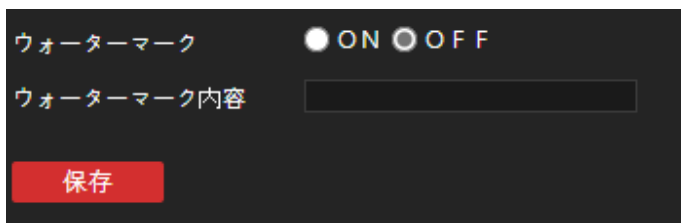
1. **設定 > セキュリティ > 登録情報**



5.8.9 ウォーターマーク

タンパリングの予防のためウォーターマークを有効にしてビデオでユーザー情報を暗号化します。

1. **設定 > セキュリティ > ウォーターマーク**



2. **ウォーターマーク**を有効にします。
3. **ウォーターマーク内容**を設定します。最大16字まで、大文字、小文字、数字の入力ができます。
4. **保存**をクリックします。

5.9 システム



参考!

カメラモデルによって異なります。

5.9.1 時刻

デバイスのシステム時刻を手動で設定、サーバーと同期化します。

1. 設定 > システム > 時刻

時刻同期: サーバーと時刻同期

タイムゾーン: (UTC+09:00) 東京、大阪、ソウル、ヤクーツク

システム時刻: 2025-01-28 21:29:10

時刻を設定: 2025-01-28 21:26:39 PCと時刻同期

NTPサーバー

NTPサーバーアドレス: 0.0.0.0 テスト

ポート: 123

更新間隔(秒): 600

保存

2. システム時刻を設定します。

- **時刻を設定**から手動で設定します。



参考!

システム時刻を手動で設定する場合**時刻同期**を**システム設定と同期**に設定してください。設定しないとカメラは手動の設定ではなく他の時刻ソースと続けて同期化します。

- 時刻同期

項目	説明
システム設定と同期	デフォルトシステムの時刻モジュールによって提供される時刻。
NTPサーバーと同期	カメラはNTPサーバーと同期します。サーバーのアドレス、ポート、およびアップデート間隔(範囲:30秒~86400秒)を設定する必要があります。 テスト をクリックしてテストすることができます。

ONVIFアクセス時間と同期する	カメラはONVIF経由で接続するサーバーと定期的に時刻を同期します。
サーバーと時刻同期	カメラは接続される全てのサーバーと定期的に時刻を同期します。
クラウドサーバーと同期	カメラはオンラインになるとクラウドサーバーと一度同期します。

3. **保存**をクリックします。

5.9.2 サマータイム

1. **設定 > システム > 時刻 > サマータイム**



2. サマータイムを有効にして開始時刻、終了時刻を設定します。
3. **保存**をクリックします。

5.9.3 デバイス情報

デバイス名などのデバイス情報を設定します。

1. **設定 > システム > デバイス情報**



2. 必要に応じて情報を作成します。
3. **保存**をクリックします。

5.9.4 ポート&デバイス

RS485ポートはPTZ制御、OSD、音声収集、照明制御などのために、カメラやサードパーティの外部デバイスへのデータ伝送に使用されます。カメラで設定されるダイレクトポートパラメーターは、カメラが接続されている外部デバイスのパラメーターと同じである必要があります。



参考!

シリアルポートはカメラモデルによっては使えない場合があります。

1. 設定 > システム > ポート&デバイス > シリアルポート

2. ポートモードを設定してパラメータを設定します。

項目	説明
ボーレート	データ転送速度(ビット/秒)。値が大きいほど、転送速度は速くなり、距離は短くなります。
ビット長	データパケットのグループ内の実際のデータビット数。
ストップビット	データグループの転送終了を表示します。
パリティ	受信されたデータビットにエラーがあるかどうかを判断するために使用されます。 奇数パリティ 又は 偶数パリティ チェックを選択することができます。
フロー制御	データの損失を防ぐために、データ伝送を制御するために使用されます。

● PTZ制御

サードパーティのデバイスを使用してPTZを制御する場合、ポートモードを**ローカルPTZコントロール**に設定します。

RS485経由でPELCO-Dコマンドを転送するとPTZコントロールパネルを使用せずPTZ制御ができます。

(1) **ポートモードをローカルPTZコントロール**に設定します。

RS485_1

ポートモード

ローカルPTZコントロール▼

ボーレート

9600▼

ビット長

8▼

ストップビット

1▼

パリティ

なし▼

フロー制御

なし▼

PTZプロトコル

PELCO-D▼

住所コード

1

☐ トランスチャネル有効

保存

(2) パラメータを設定します。

項目	説明
PTZプロトコル	正確なPTZプロトコルを選択します。: PELCO-D, PELCO-P, INTERNAL-PTZ, ALEC, VISCA, ALEC_PELCO-D, ALEC_PELCO-P, MINKING_PELCO-D, MINKING_PELCO-P, YAAN,Private-KR. 一部のカメラモデルはPTZプロトコルがPELCO-Dの場合、1～1024までプリセットIDをサポートします。PTZプロトコルが他のプロトコルの場合、1～255までプリセットIDをサポートします。
住所コード	PTZ住所コードを設定します。 参考! このパラメータはポートモードがローカルPTZコントロールに設定されていて、PTZプロトコルがローカルPTZコントロールに設定されている場合、設定することができます。

- トランスチャンネル

RS485及びサードパーティのデバイスのからデータを転送するために使用されます。



参考!

この機能は特定のカメラモデルでのみ使用できる場合があります。

(3) ポートモードをトランスチャンネルに設定します。

(4) トランスチャンネルを活性化します。

(5) IPアドレス、ポートだけではなくチャンネルが接続されるサードパーティのデバイスのポート数を入力します。

RS485_1

ポートモード: トランスチャネル ▼

ボーレート: 9600 ▼

ビット長: 8 ▼

ストップビット: 1 ▼

パリティ: なし ▼

フロー制御: なし ▼

☒ トランスチャネル有効

保存

(6) **保存**をクリックします。

- OSD

RS485ポートを介してサードパーティデバイスからシリアルポート情報を取得しOSDに分析された情報を上書きします。



参考!

カメラが受信されるシリアルポートの情報を正確に分析できるように、サードパーティのデバイスから受信されるシリアルポートがデータフォーマットと一致しているか確認します。

(1) **ポートモード**を**OSD**に設定します。

RS485_1

ポートモード: OSD ▼

☒ OSDレポート有効

ボーレート: 9600 ▼

ビット長: 8 ▼

ストップビット: 1 ▼

パリティ: なし ▼

フロー制御: なし ▼

☐ トランスチャネル有効

保存

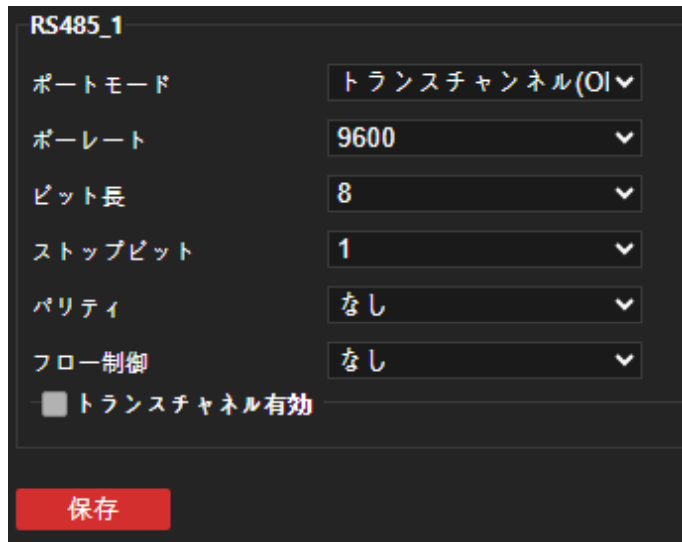
(2) **OSDレポート有効**を選択します。OSDデータがプラットフォームにアップロードします。

(3) **保存**をクリックします。

- トランスチャンネル(ONVIF)

Onvif 経由でカメラとサードパーティのデバイス間のデータ転送のためRS485ポートを使用します。

(1) ポートモードをトランスチャンネル(ONVIF)に設定します。



The screenshot shows a configuration window titled "RS485_1". It contains several settings for the RS485 port:

設定項目	設定値
ポートモード	トランスチャンネル(OI▼)
ボーレート	9600 ▼
ビット長	8 ▼
ストップビット	1 ▼
パリティ	なし ▼
フロー制御	なし ▼
☐ トランスチャンネル有効	

At the bottom left of the window is a red button labeled "保存" (Save).

(2) パラメータを設定します。

(3) **保存**をクリックします。

5.9.5 メンテナンス

1. メンテナンス

システムメンテナンスにはソフトウェア更新、設定管理、診断情報、電源出力、デバイス再起動の設定ができます。

設定 > システム > メンテナンス

- ソフトウェア更新



参考!

- バージョンがデバイスと一致しているか確認します。一致しない場合、エラーが発生する可能性があります。
- バージョンファイルは.zipファイルになっています。
- アップグレードはしばらく時間がかかります。電源を切らないでください。

➤ ローカル更新

(1) **ファイル選択**をクリックしてバージョンのファイルを探します。

ブートプログラムをアップグレードを選択してブートプログラムをアップグレードします。

(2) **アップグレード**をクリックして開始します。デバイスはアップグレードが終わると自動的に再起動します。

➤ クラウド更新

検知をクリックして新しいバージョンがあるか確認します。

クラウドサーバーから新しいバージョンが使用できたらクラウドアップグレード更新することができます。

- 設定管理

バックアップのためにクライアントのパソコン又は外部ストレージデバイスにカメラの現在設定をエクスポートできるため、必要に応じてバックアップファイルをインポートしてカメラの設定を復元することができます。



参考!

- デフォルト値に復元すると管理者パスワード、ネットワークインターフェース設定、時刻を除いた全ての設定値を工場出荷設定に復元されます。
- 設定ファイルをインポートされる前、ファイルがカメラモデルと一致しているかを確認してください。一致しない場合エラーが発生する可能性があります。
- カメラは設定ファイルをインポートされたら再起動します。

➤ 設定の読み出し

- (1) **読み出し**ボタンの横の**ファイル選択**をクリックします。
- (2) 設定ファイルを選択して**読み出し**をクリックします。
- (3) パスワードを入力して確定します。
- (4) **確認**をクリックします。

➤ 設定の書き出し

- (1) **書き出し**ボタンの横の**ファイル選択**をクリックします。
- (2) 保存フォルダを選択して書き出しをクリックします。
- (3) パスワードを入力して確定します。
- (4) **確認**をクリックします。

➤ 工場出荷設定

工場出荷設定をクリックします。システムはネットワーク、ユーザ情報を除いた基本設定値を復元します。

全ての設定値を復元するには **ネットワーク、ユーザ情報を含めて、すべて工場出荷設定値に戻します。**を選択します。

● 診断情報

診断情報はログとシステム情報を表示して、クライアントパソコンに情報を送ることもできます。ビデオ画像がある診断情報を収集するには**画像デバッグ情報収集**を選択してください。

- (1) **ファイル選択**をクリックして対象を選択します。
- (2) **書き出し**をクリックします。

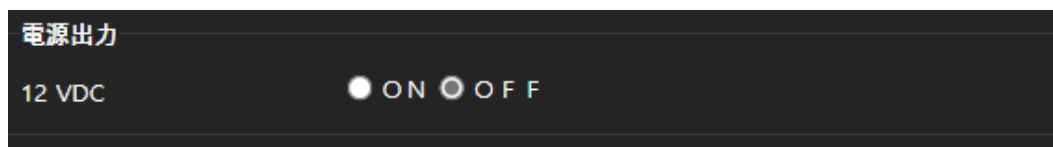


参考!

診断情報を圧縮ファイルで書き出します。

- 電源出力

カメラはサウンドピックアップみたいな電力消費が低い外部デバイスに電力を供給することができます。



デバイスを再起動します



参考!

再起動するとデバイスへの接続が中断されます。



再開をクリックしてデバイスを再起動します。設定された時刻に自動に再起動するようにスケジュールを設定することもできます。

2. ネットワーク診断

設定 > システム > メンテナンス > ネットワーク診断



- NICを選択

NIC1はカメラのIPアドレスです。

- IP/ポートフィルター

- 全て: カメラの全てのパケットをキャプチャします。
- 指定: 指定ポートまたはIPのパケットをキャプチャします。
- フィルター: 指定ポートまたはIPパケットをフィルターして他のパケットをキャプチャします。

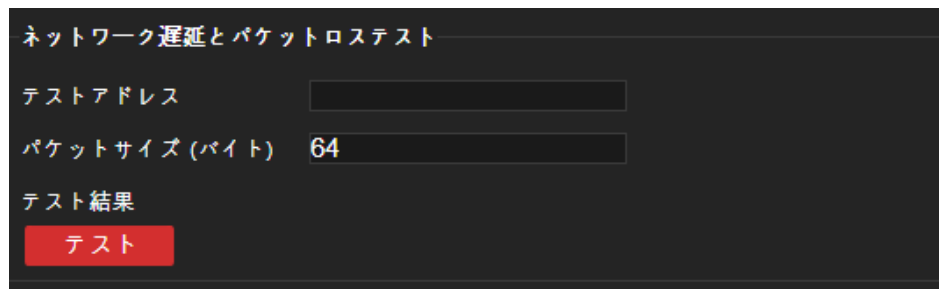
- カスタムルール

カスタムルールを選択してルールを設定します。

スナップショット開始をクリックしてパケットを開始します。パケットキャプチャが終わったらデータを保存して診断を確認します。

- ネットワーク遅延とパケットロステスト

テストアドレスにテストパケットを送ってネットワークをテストします。



ネットワーク遅延とパケットロステスト

テストアドレス

パケットサイズ (バイト) 64

テスト結果

テスト

- テストアドレス: 有効なIPアドレスまたはドメイン名。
- パケットサイズ(バイト): 転送するテストパケットのサイズ。範囲(バイト): [64~65507]

パケットサイズが多い場合、遅延が発生する可能性があります。

テストが失敗した場合はパケットサイズを小さく設定してもう一度テストを行います。

- テスト結果には平均遅延及びパケット損失率が表示されます。

平均遅延: 反応が受信されるまでのテストパケットの平均時間が転送されます。

パケット損失率: 転送したパケットに対する損失されたパケットの比率。

5.9.6 ログ

カメラログを検索してパソコンにダウンロードします。

設定 > システム > ログ

時刻	2025-01-29 00:00:00	~2025-01-29 23:59:59					
メインタイプ	すべて	サブタイプ	すべて				
手術							
検索				書き出し			
番号	タイプ	サブタイプ	日付	時刻	ユーザー名	IP	結果
合計 items: 1 / < >							

1. 時刻の範囲を設定してログタイプ（メイン、サブ）を選択します。
 - メインタイプ: アラーム設定、ネットワーク、ビデオと音声、PTZ、画像設定、スマート、設定管理、ストレージ、アラームイベントの選択ができます。
 - サブタイプ: 最大 5 個の項目が選択できます。すべての項目を選択することもできます。
2. **検索**をクリックします。最大100個のログが表示されます。
3. **書き出し**をクリックしてクライアントのパソコンに.csvファイルで保存します。